

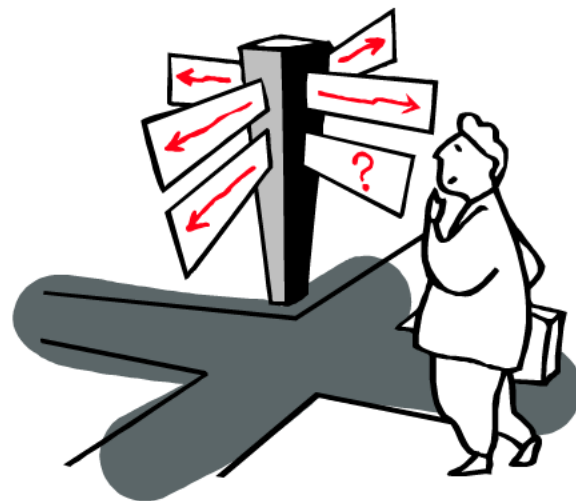
人口成熟問題の本質と対処策

2006年2月14日

日本政策投資銀行

地域企画部 参事役 もたに 藻谷浩介

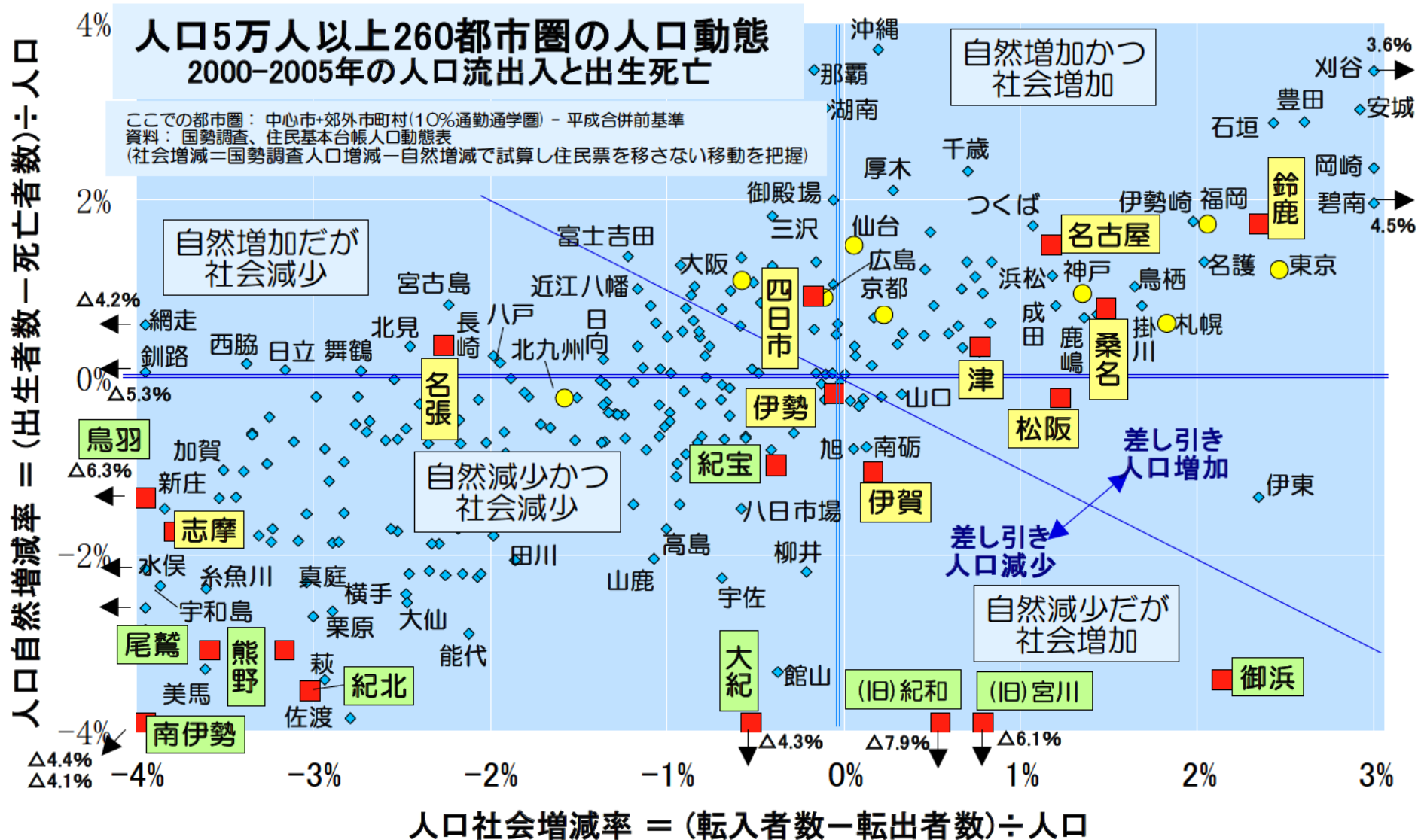
E-mail: komotan@dbj.go.jp



三重県内都市圏の人口動態

昨年10.1の国勢調査に基づいた最新動向

(鈴鹿=亀山含む / 桑名=いなべ・東員含む / 四日市=三重郡含む / 松阪=明和・大台・多気含む / 伊勢=度会・玉城含む)



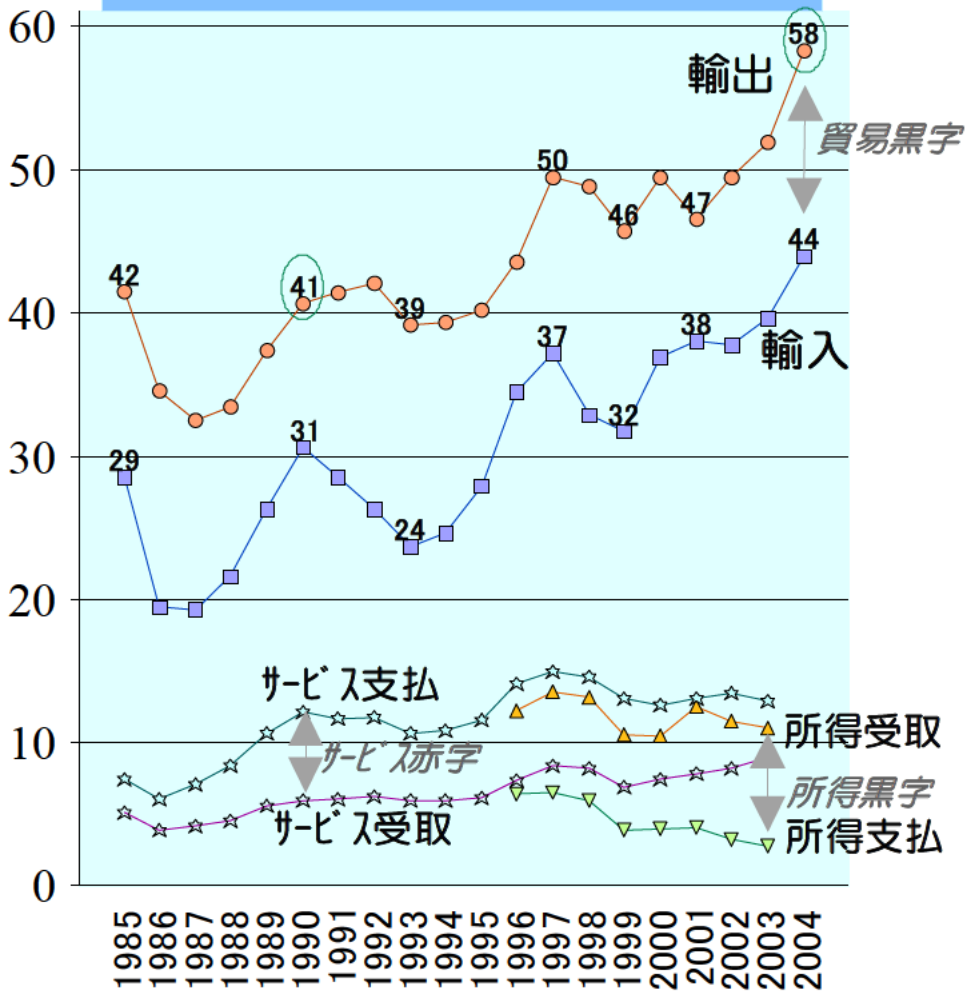
正しいのはどれとどれ？

- A: 日本の人口は明治維新のころ3千万人。第二次大戦までに1億人へと3倍以上の伸びを示した。戦後はそこから3割弱の増加にとどまっている。
- B: 少子化が進んで、「失われた10年」といわれる90年代には毎年の出生者数が2割も減り、これが原因で年金の破綻が懸念される。**
- C: 2000年(5年前)の国勢調査と2020年(15年後)の政府予測値を比べると、わが国の総人口は2割減るのに、70歳以上人口はほとんど減らないと予測されており、深刻な高齢化が進む。
- D: 工場の海外流出で、日本製品の輸出は減りつつある。中国との貿易では日本の方が赤字になってしまった。**

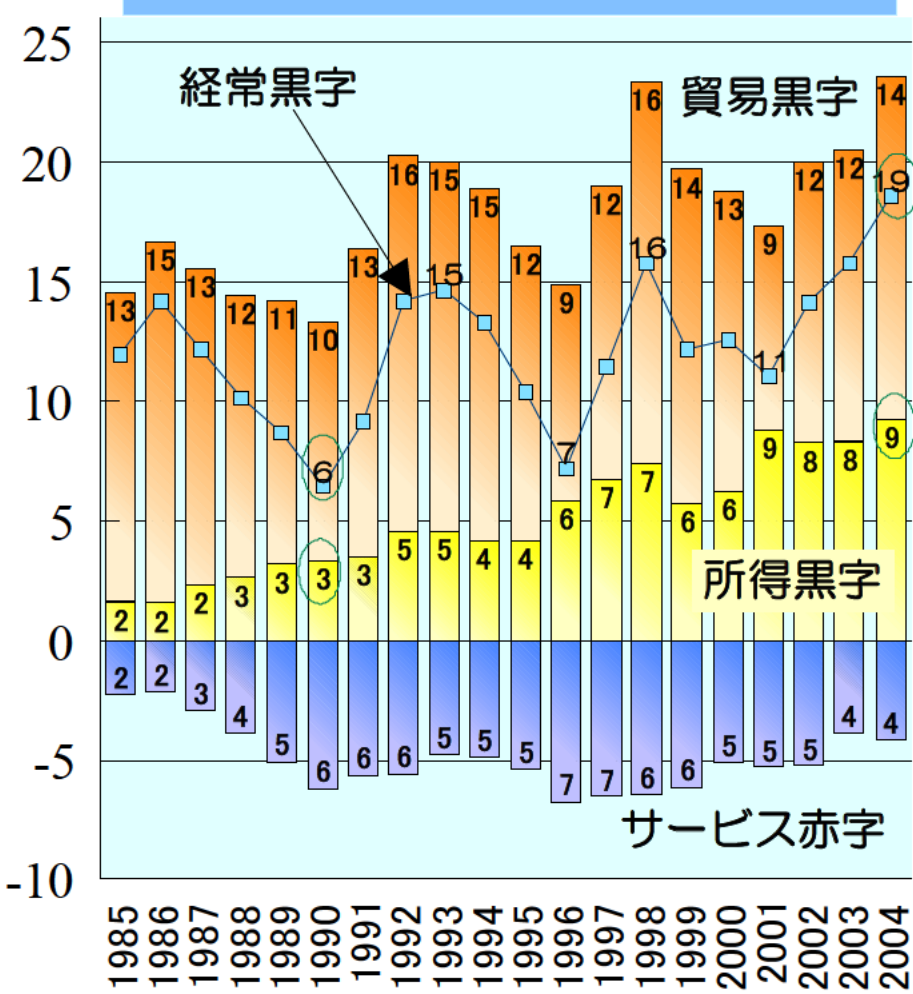


外国から金を稼ぎ続ける日本

兆円 **増え続ける日本からの輸出**



兆円 **経常黒字はバブル期の2.5倍に**



暦年

暦年

外国から日本



日本の「食べ方」の大変化！

2.5倍に

15年前：貿易黒字(15兆円)がすべて

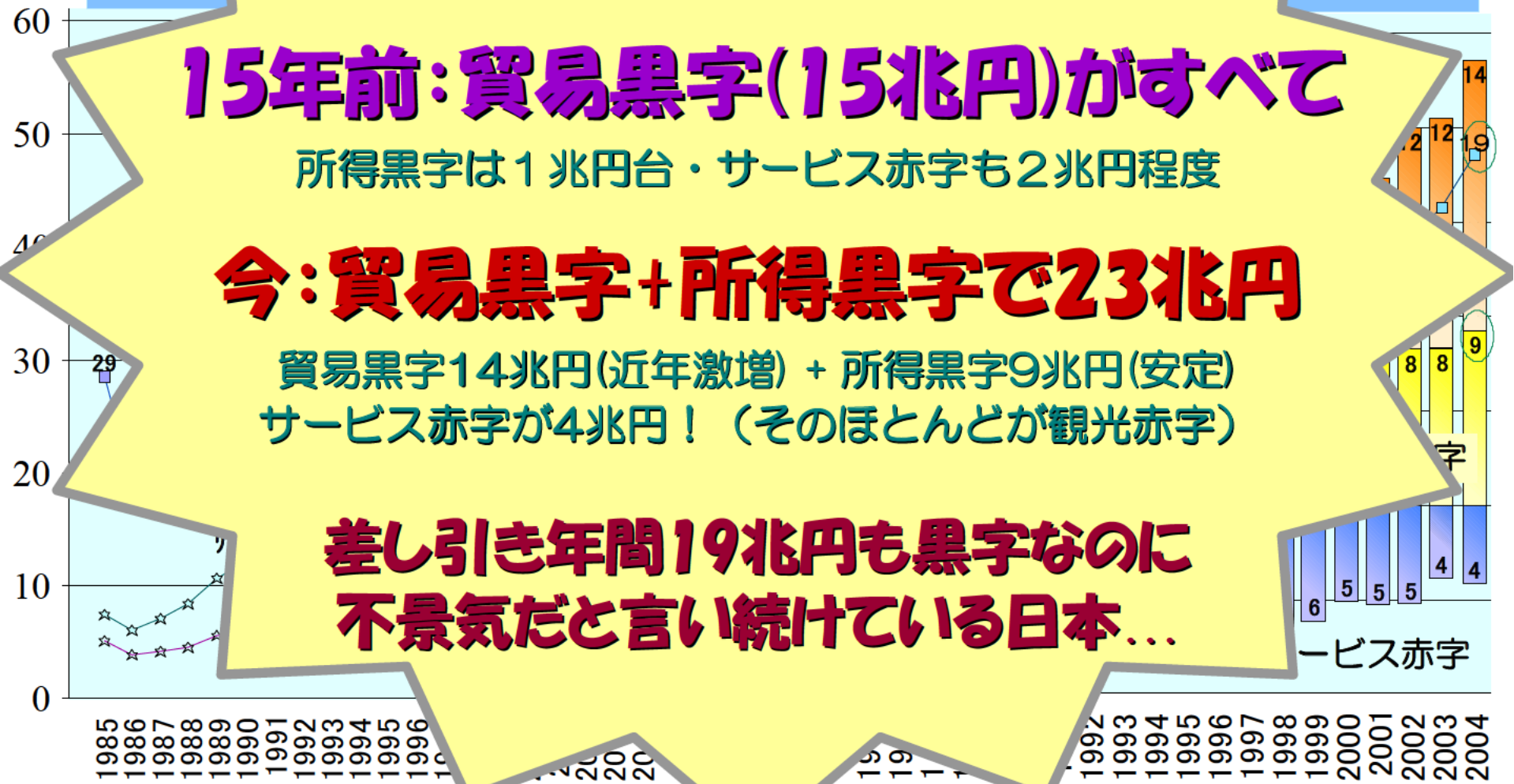
所得黒字は1兆円台・サービス赤字も2兆円程度

今：貿易黒字+所得黒字で23兆円

貿易黒字14兆円(近年激増) + 所得黒字9兆円(安定)
サービス赤字が4兆円！(そのほとんどが観光赤字)

差し引き年間19兆円も黒字なのに 不景気だと言い続けている日本...

兆円 増え続



暦年

暦年

「率」ばかりをウォッチし 「実数」を失念する愚かさ

出生率: 1990年 1.54 → 2000年 1.36

出生者数: 1990年 122万人 → 2000年 万人

高齢化率: 2000年 17.4% → 2015年 26.0%

65歳以上: 2000年 22百万人 → 2015年 百万人

15-64歳: 2000年 86百万人 → 2015年 百万人

失業率: 90年 1.9% → 95年 2.7% → 00年 2.9%

就業率: 61.4% → % → 59.1%

就業者数: 62百万人 → 百万人 → 63百万人

時代の根底がひっくり返った

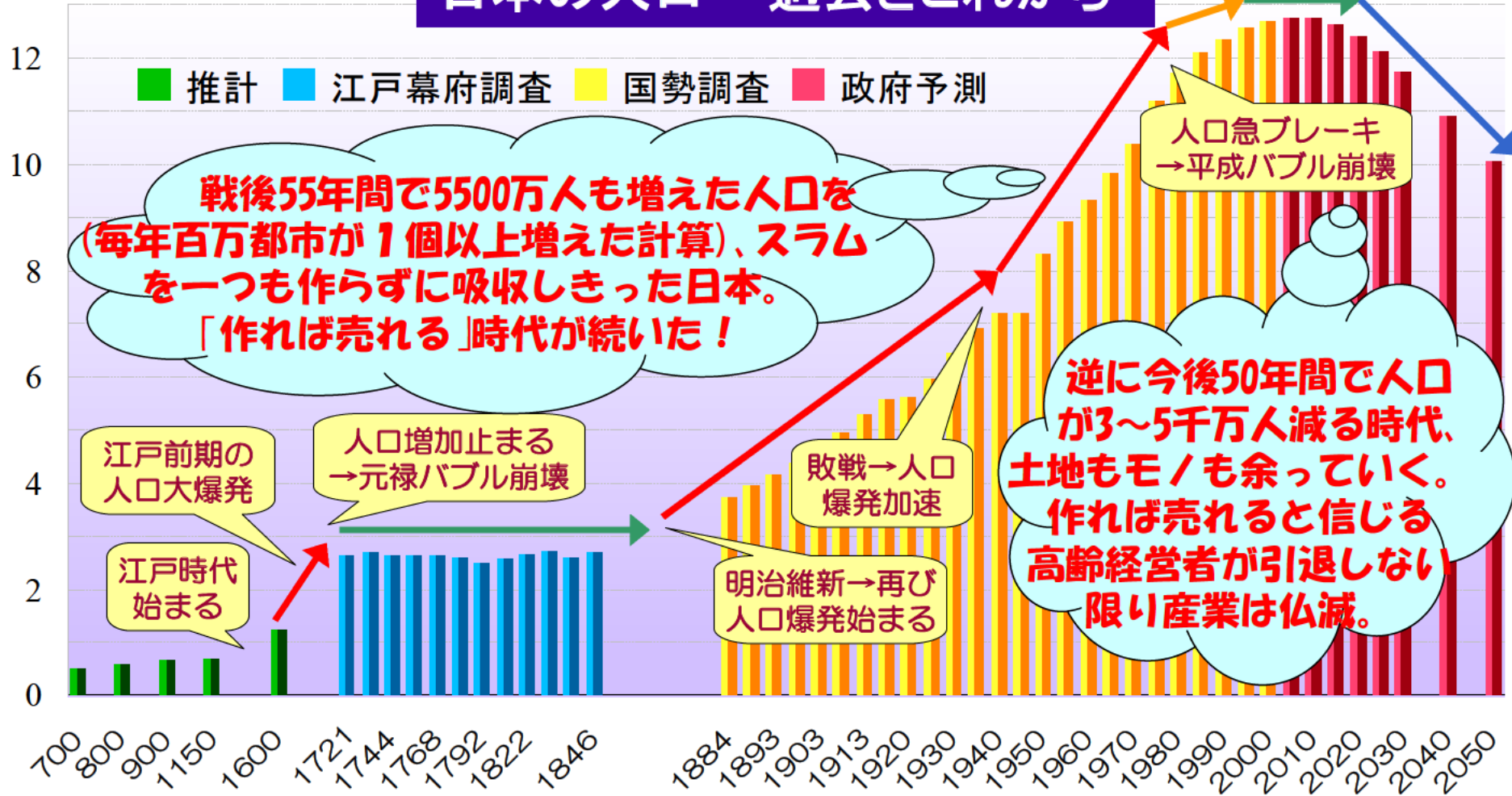
戦後半世紀に儲けてきた世代を引退させねば活路はない



千万人

日本の人口 - 過去とこれから

■ 推計 ■ 江戸幕府調査 ■ 国勢調査 ■ 政府予測



戦後55年間で5500万人も増えた人口を(毎年百万都市が1個以上増えた計算)、スラムを一つも作らずに吸収しきった日本。「作れば売れる」時代が続いた!

江戸前期の人口大爆発

人口増加止まる → 元禄バブル崩壊

江戸時代始まる

敗戦 → 人口爆発加速

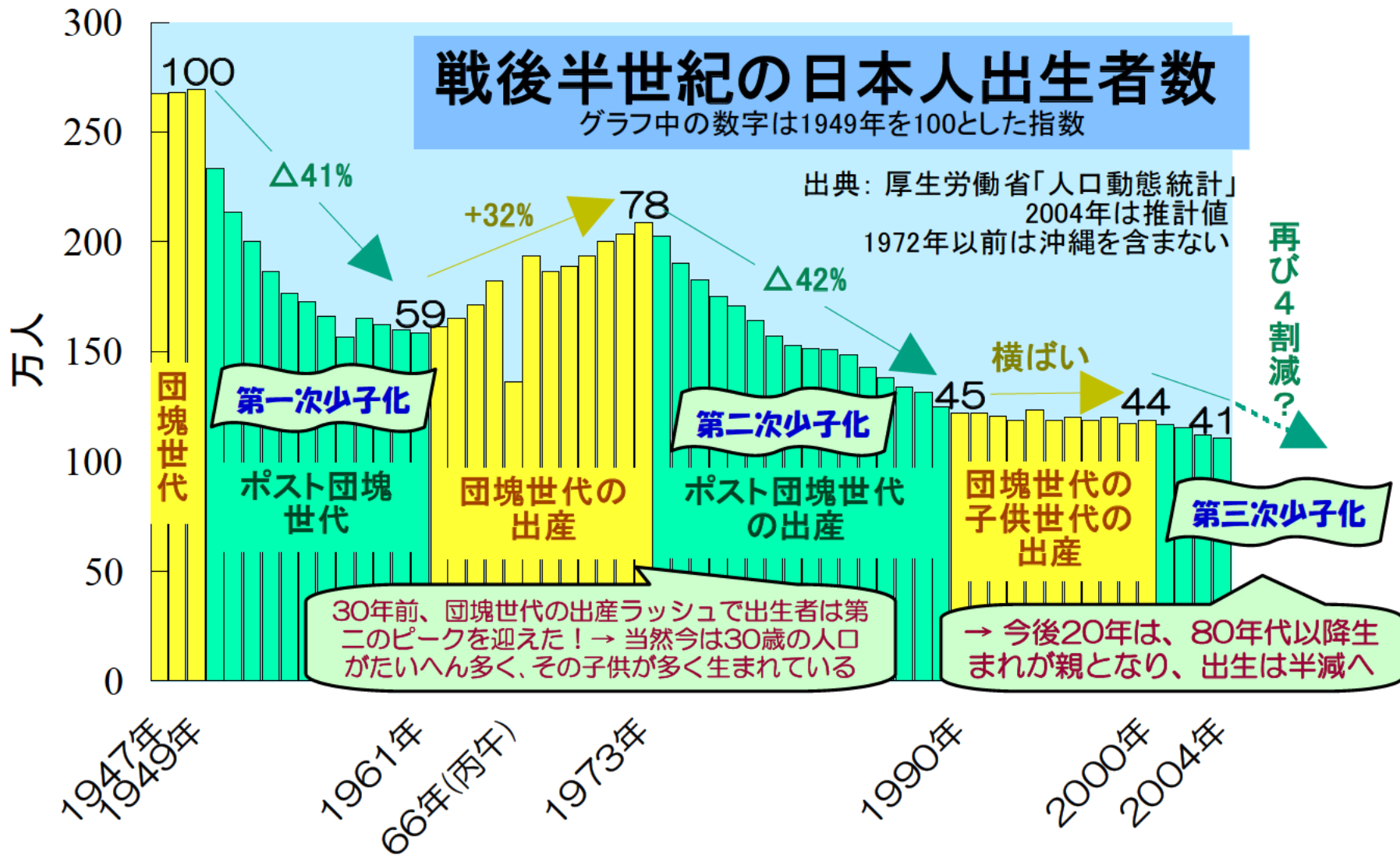
明治維新 → 再び人口爆発始まる

逆に今後50年間で人口が3~5千万人減る時代、土地もモ/も余っていく。作れば売れると信じる高齢経営者が引退しない限り産業は仏滅。

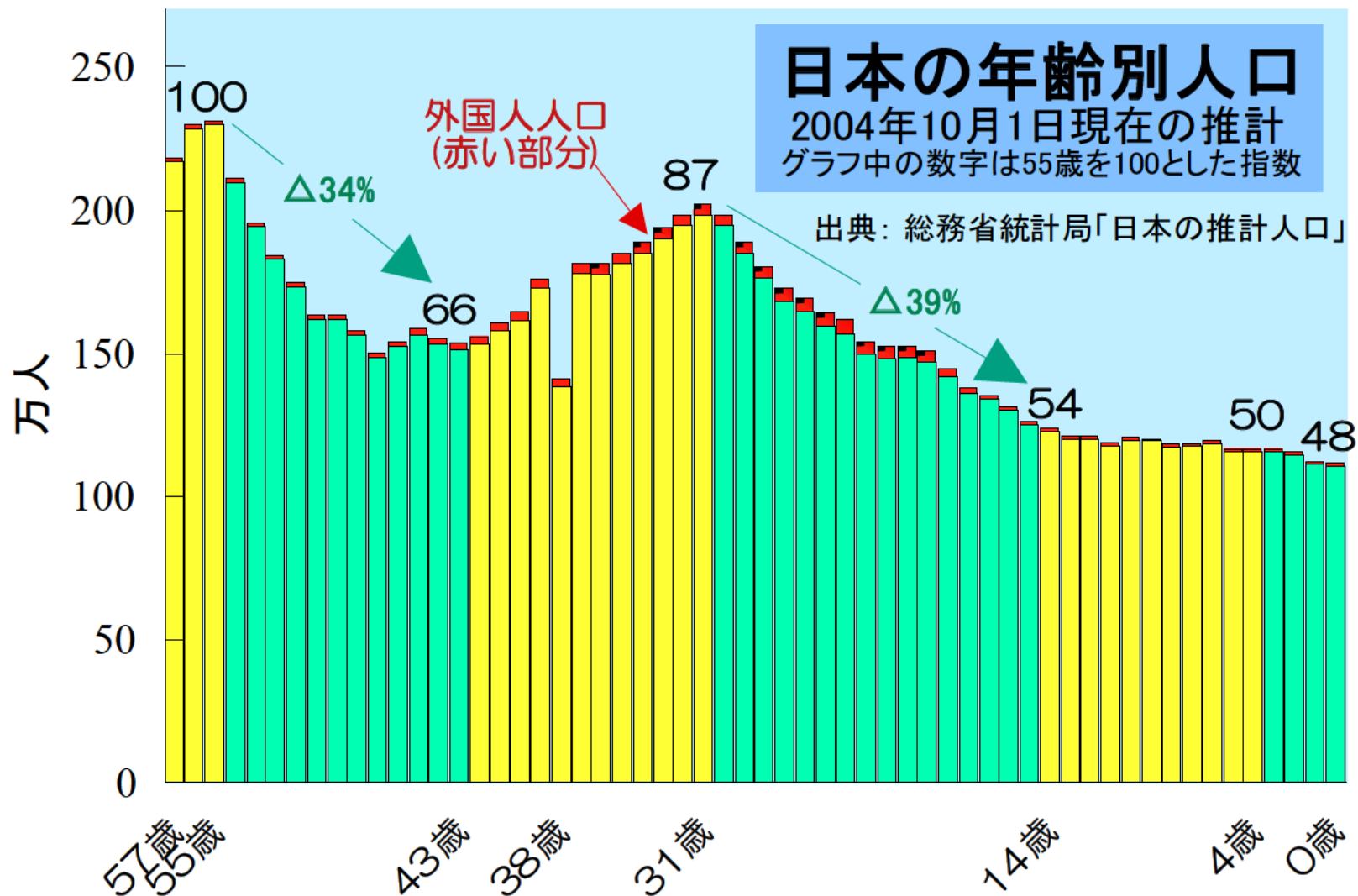
人口急ブレーキ → 平成バブル崩壊

現在

出生率低下よりも「親の数」減少の方が重要変数 少子化が本格的に進むのはこれから



毎年生まれた子供はそのまま人口構成として固定 かくしてできた大きく波打つ世代別人口



毎年生まれた子供構成として固定
かくして

**2020年には、子供を
生む年齢層は今より4割減
→生まれる子供も普通は4割減**

**出生率をいくら上げても
団塊世代退場の穴を埋める
ほどの数は生まれない**

0
57歳
55歳

4歳
0歳

東アジア全域で進む出生率低下

- **日本** **1.29** (東京都1.00、最低は渋谷区の0.76)
- **台湾** **1.24**
- **シンガポール** **1.20**
- **韓国** **1.17**
- **香港** **0.94**
- **上海** **0.7** (中国人口問題専門家よりの聞き書き)
- **中国全体** **1.3~1.8** (NYタイムズ記事にあった推定値)

※儒教の影響で男尊女卑傾向が強いほど、出生率が低く、しかも男児ばかりを生もうとする傾向がある(中国では118:100)

東アジア

率低下

中国では2020年頃に
人口増加が止まり、2030年頃
から減少が始まるとも言われる

大量生産モデルは行き詰まり
低所得国からの移民は中国に
集中するのではないか？

- 中

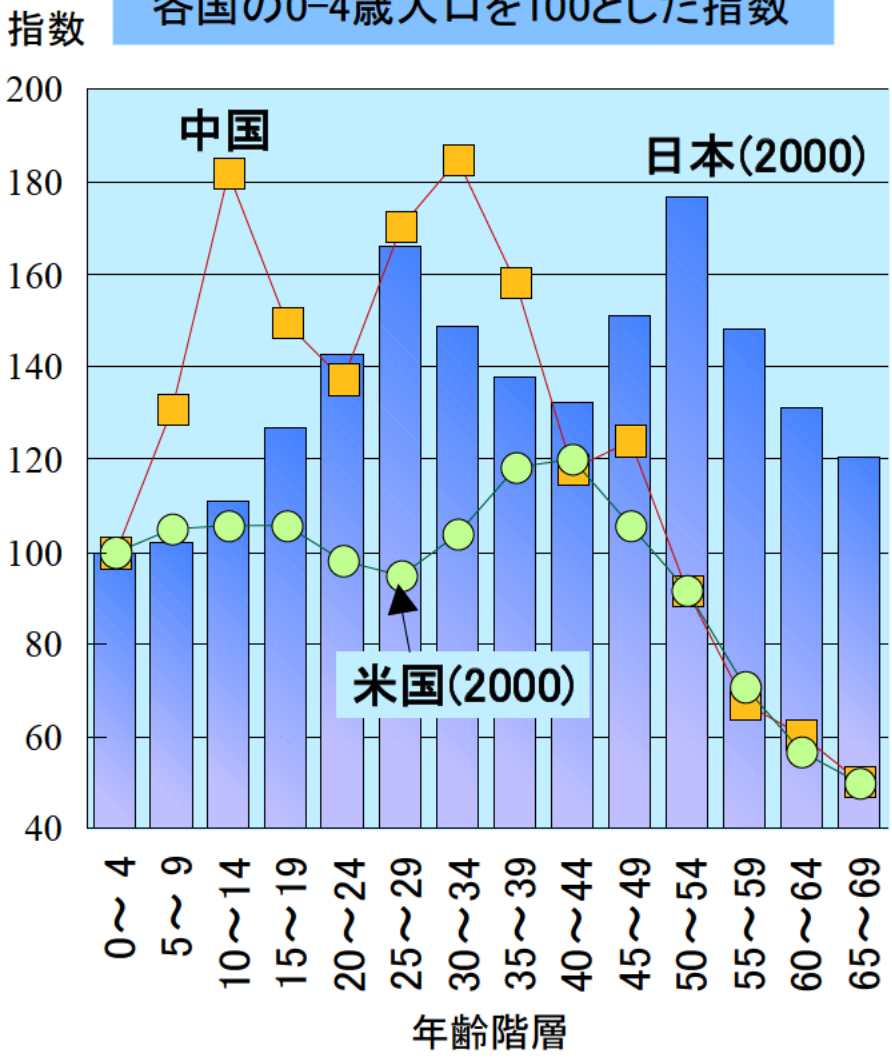
(推定値)

※儒教の影響が低く、しかも
男児ばかりを生む(中国では118:100)

日独中韓と米国の人口構造の違い

人口ピラミッドの比較-日米中

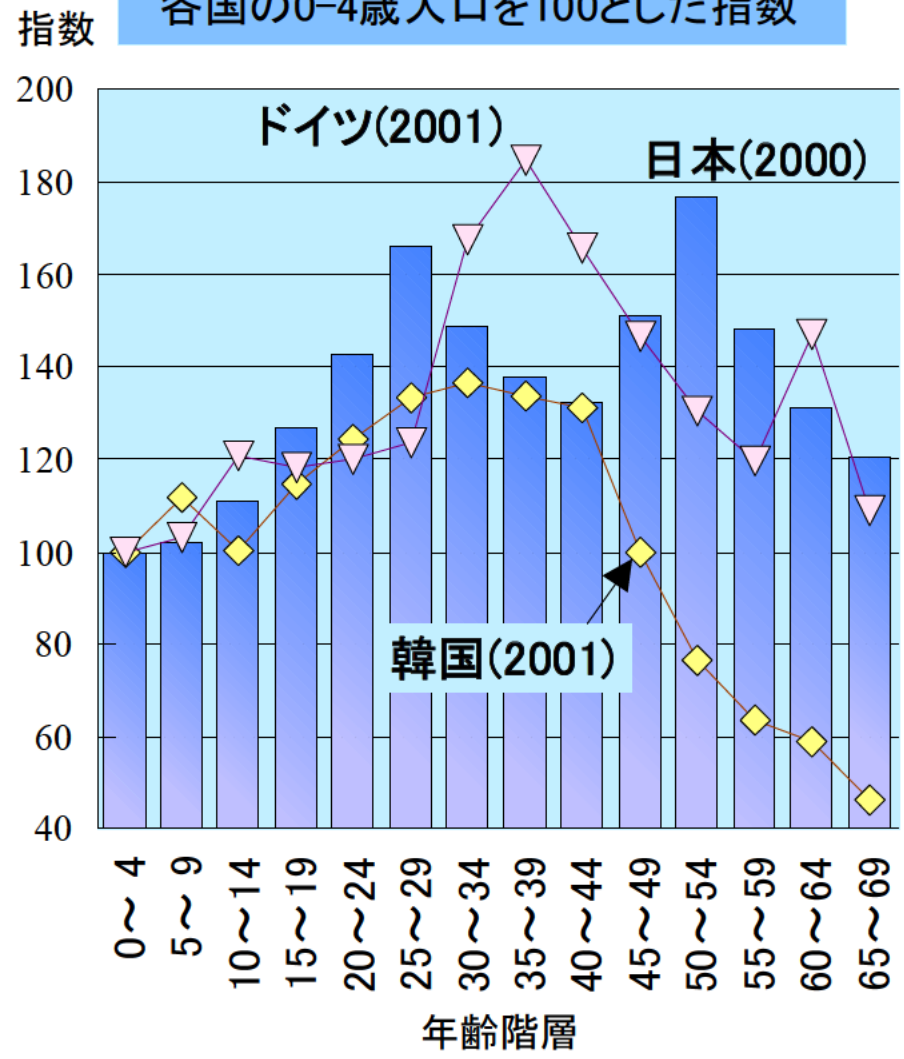
各国の0-4歳人口を100とした指数



出典：国連 "Demographic Yearbook" 2001

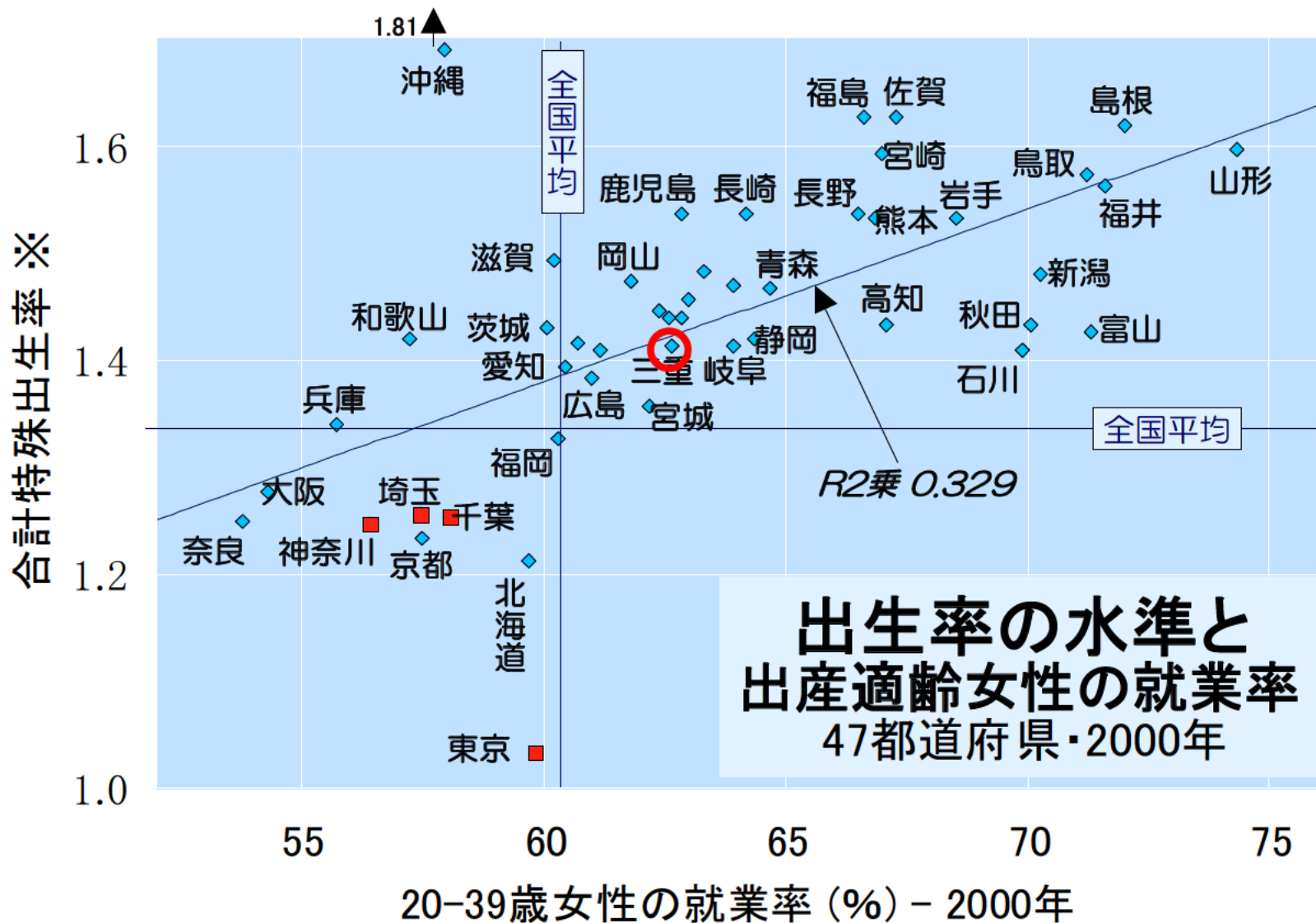
人口ピラミッドの比較-日独韓

各国の0-4歳人口を100とした指数



出典：国連 "Demographic Yearbook" 2001

女性就労率と出生率の相関関係

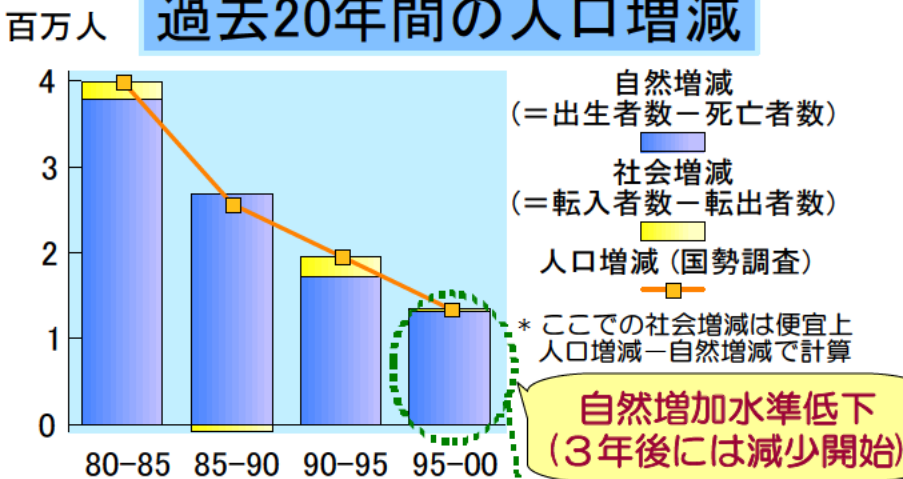


※ 合計特殊出生率は1999～2001年の3ヶ年の単純平均 / [資料] 人口動態調査、国勢調査より筆者が作成

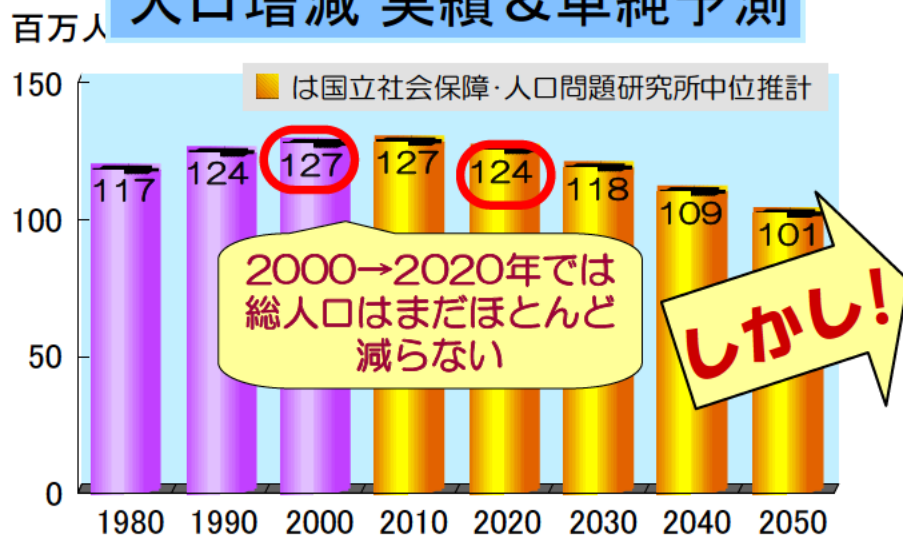
出生率に関係なく来る2020年・日本の危機

ー 国立研究所による日本全体の人口の中位推計

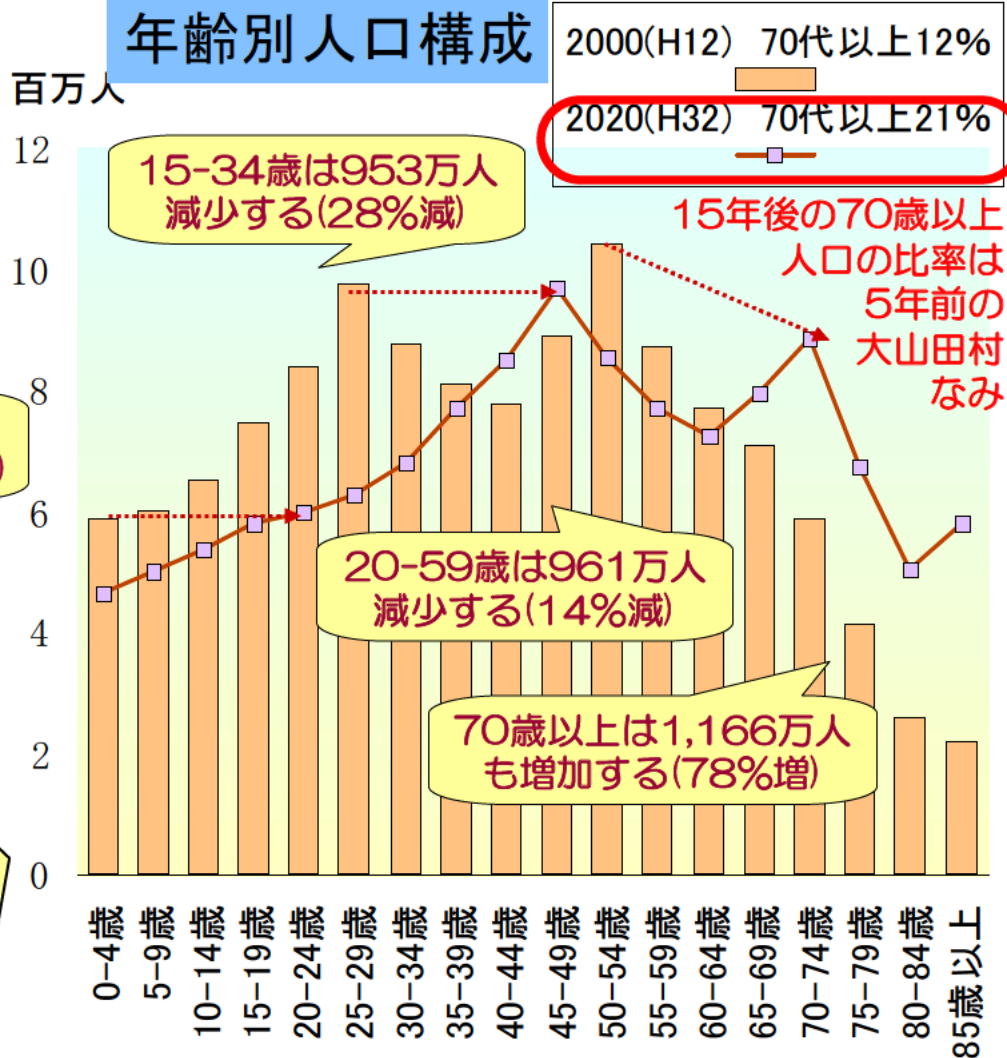
過去20年間の人口増減



人口増減 実績 & 単純予測



年齢別人口構成



2020年は国立社会保障・人口問題研究所中位推計

日本の危機

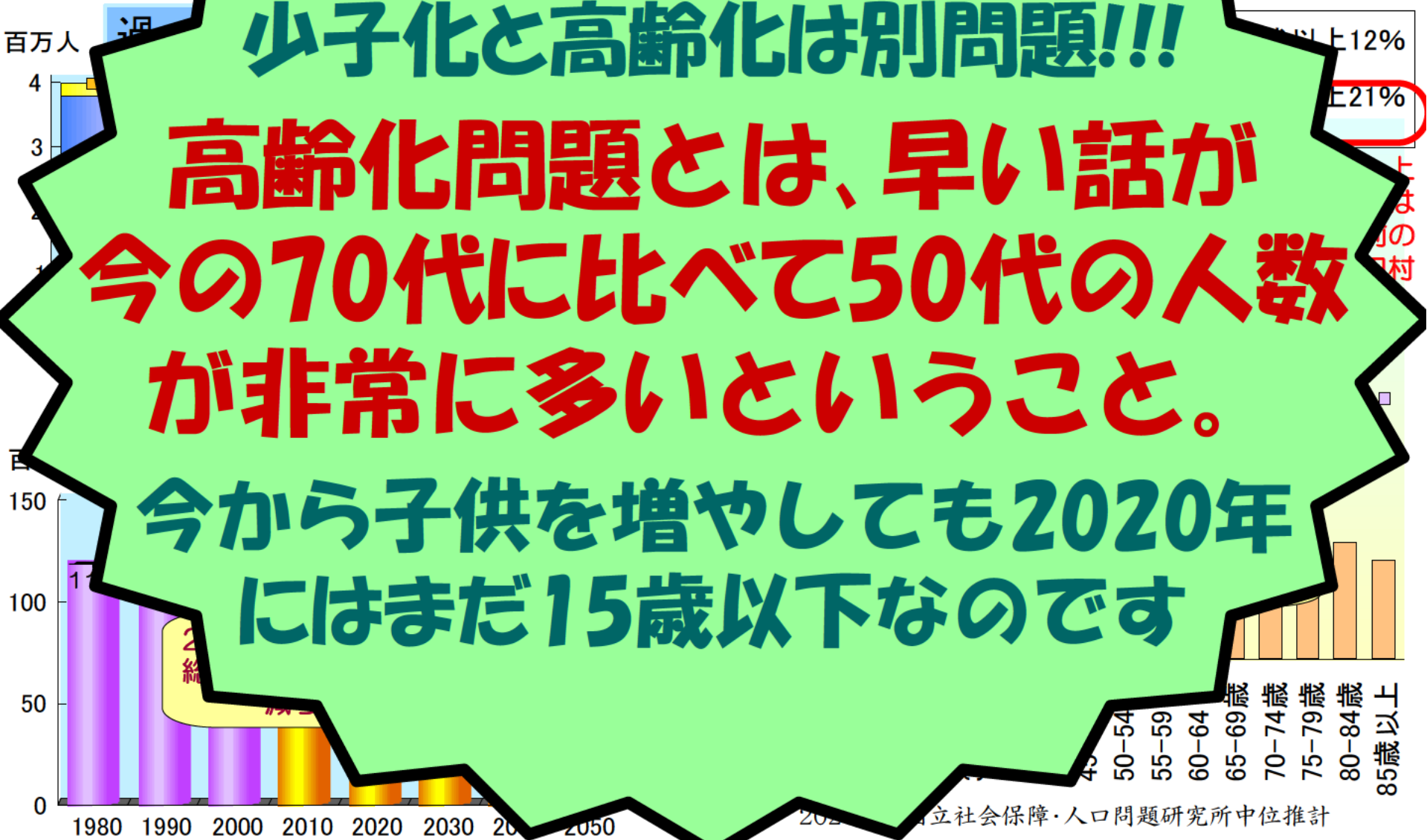
出生率に関係

— 国立研

少子化と高齢化は別問題!!!

**高齢化問題とは、早い話が
今の70代に比べて50代の人
数が非常に多いということ。**

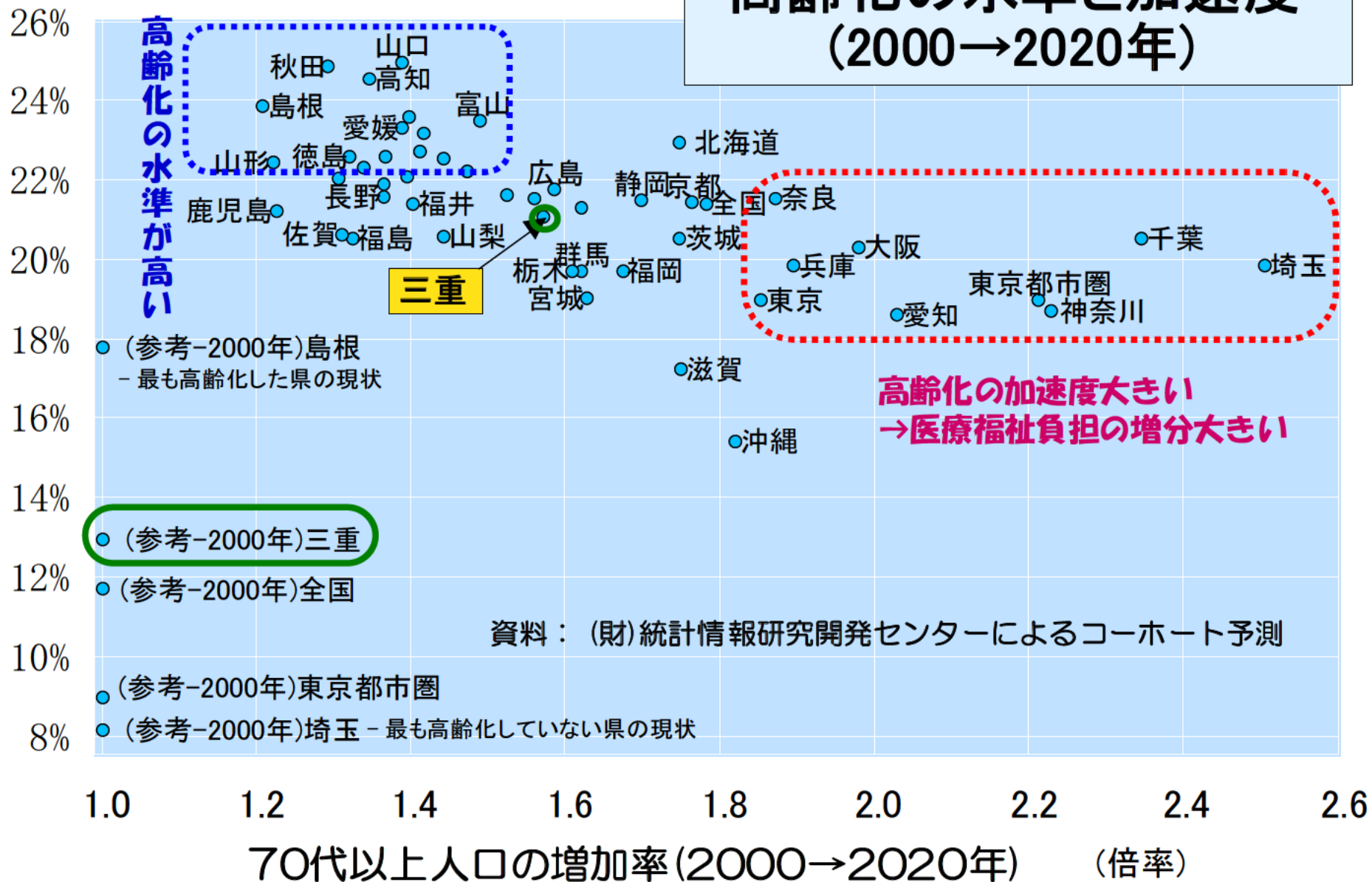
**今から子供を増やしても2020年
にはまだ15歳以下なのです**



大都市圏ほど高齢者が増える

70代以上人口の比率(2020年)

高齢化の水準と加速度
(2000→2020年)

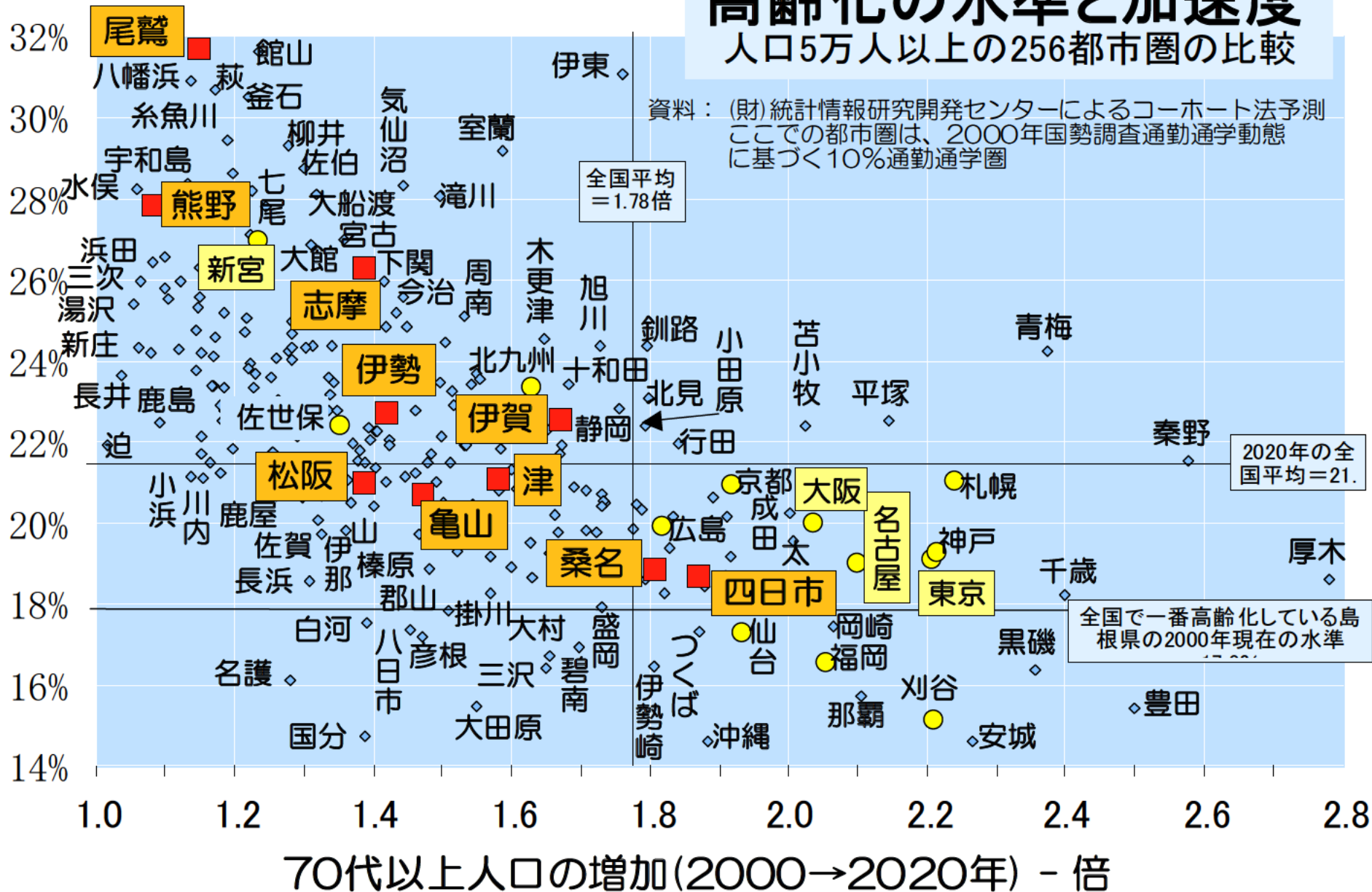


大都市圏でこそ急速に進む高齢化

70代以上人口の比率(2020年)

高齢化の水準と加速度

人口5万人以上の256都市圏の比較

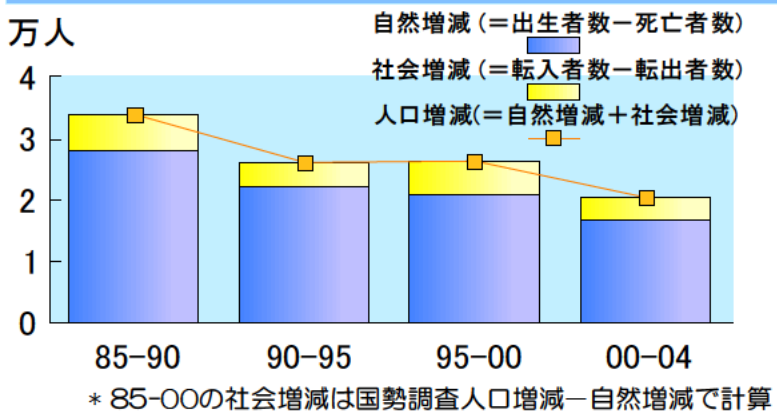


名古屋都市圏も急速に高齢化する¹⁹

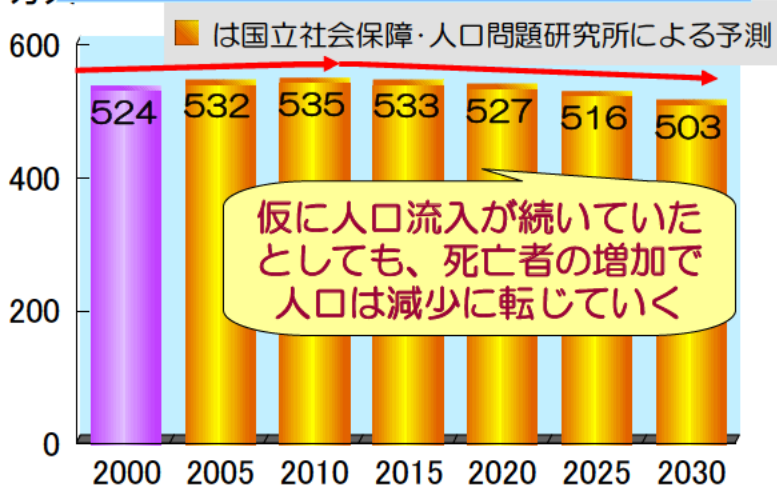
(90年代後半の転出入のトレンドが続くと仮定したコーホート予測)

名古屋都市圏：名古屋市 + 愛知県西部・岐阜県南西部・三重県北西部にまたがる57市町村

過去20年間の人口増減(年換算)

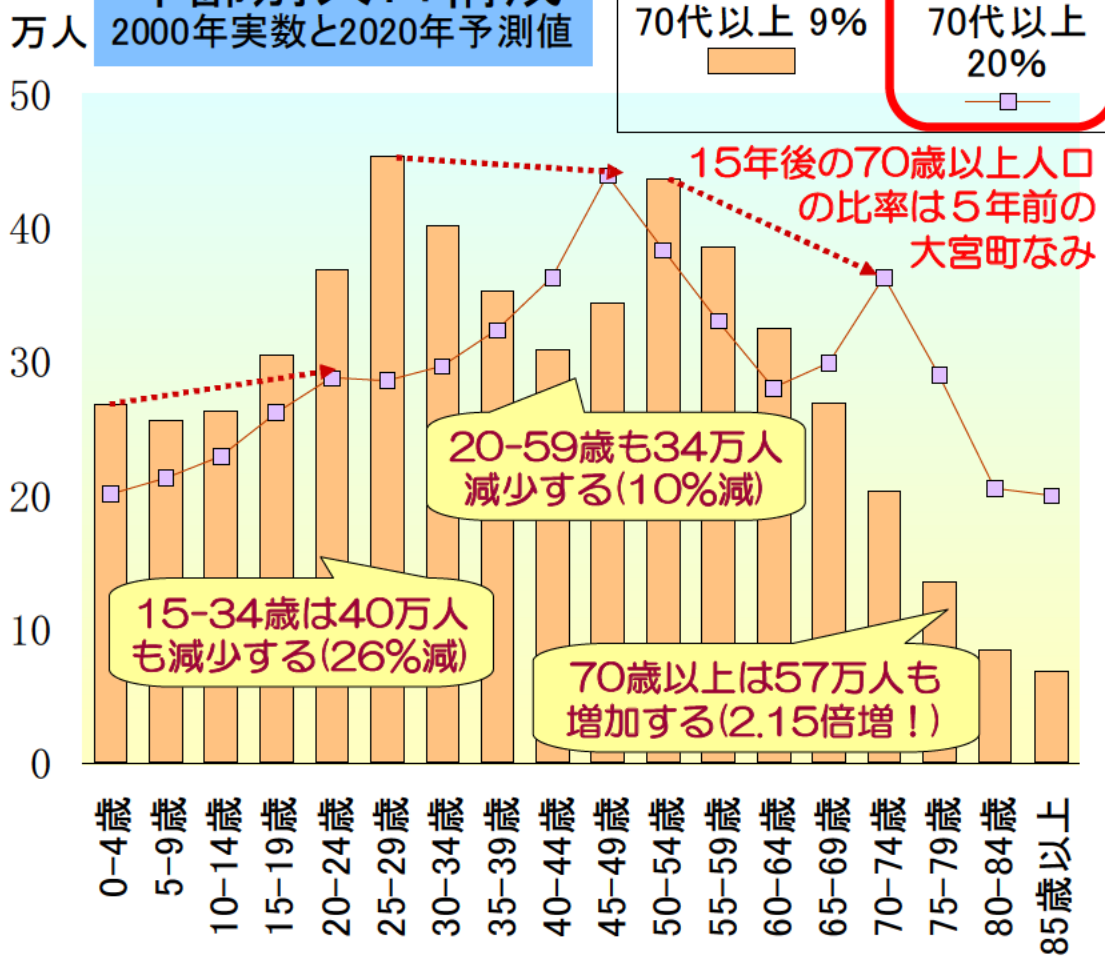


人口増減 実績&単純予測



年齢別人口構成

2000年実数と2020年予測値



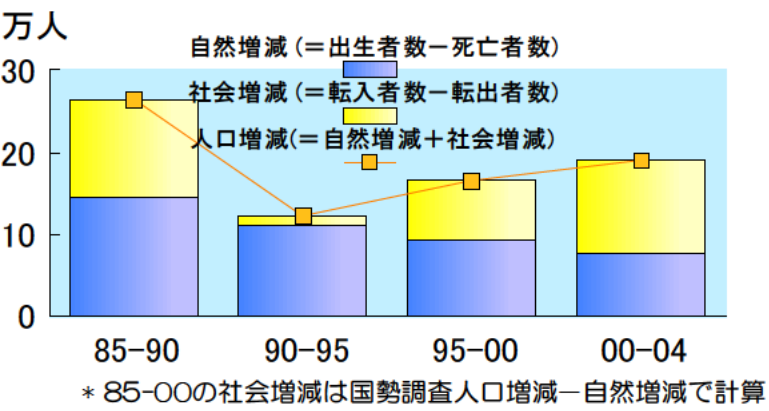
2020年は国立社会保障・人口問題研究所による予測値

東京大都市圏も深刻に高齢化！

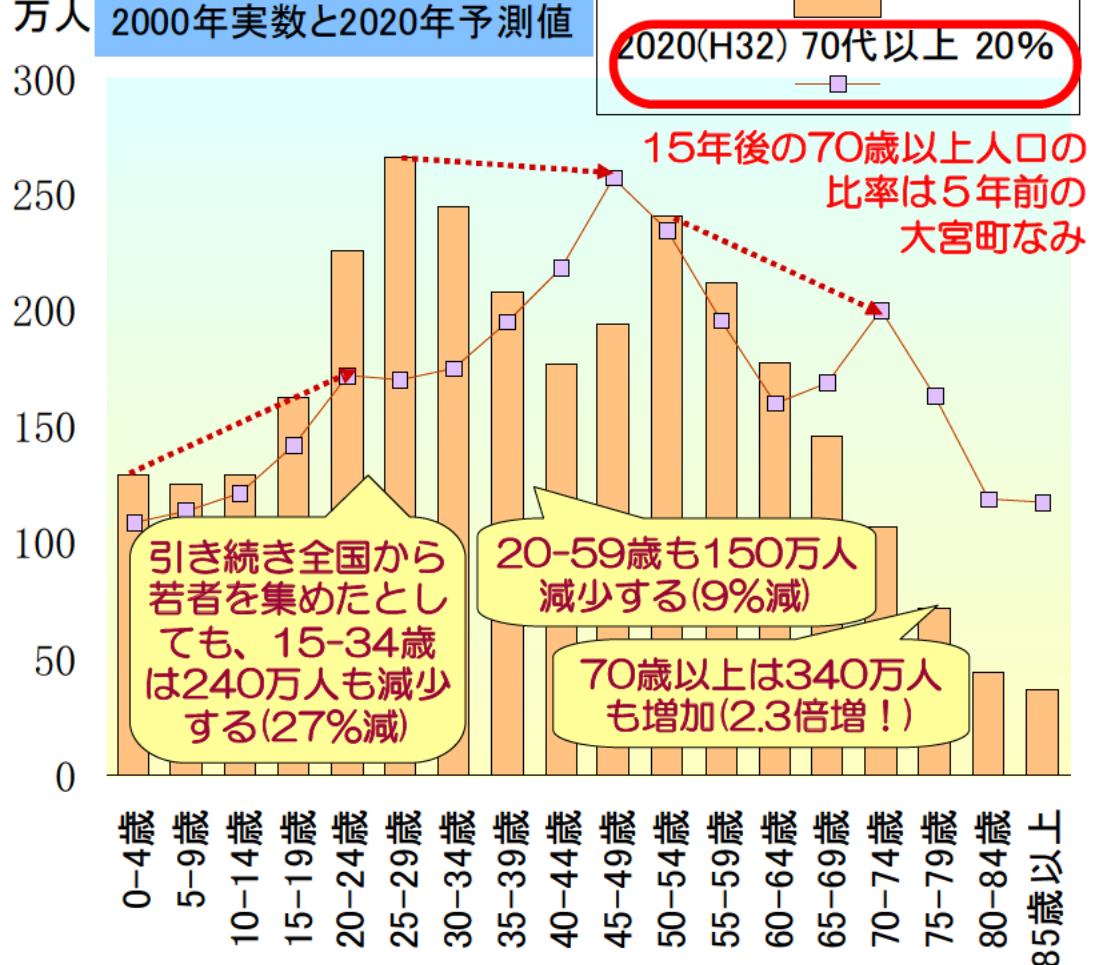
(90年代後半の転出入のトレンドが続くと仮定したコーホート予測)

東京大都市圏：東京特別区 + 都下の大部分・埼玉南半・千葉西半・神奈川東半・茨城西南部にまたがる124市町村

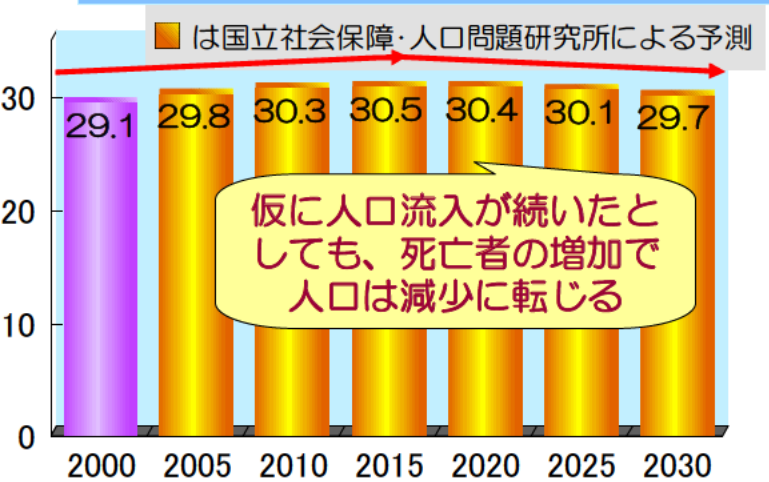
過去20年間の人口増減(年換算)



年齢別人口構成



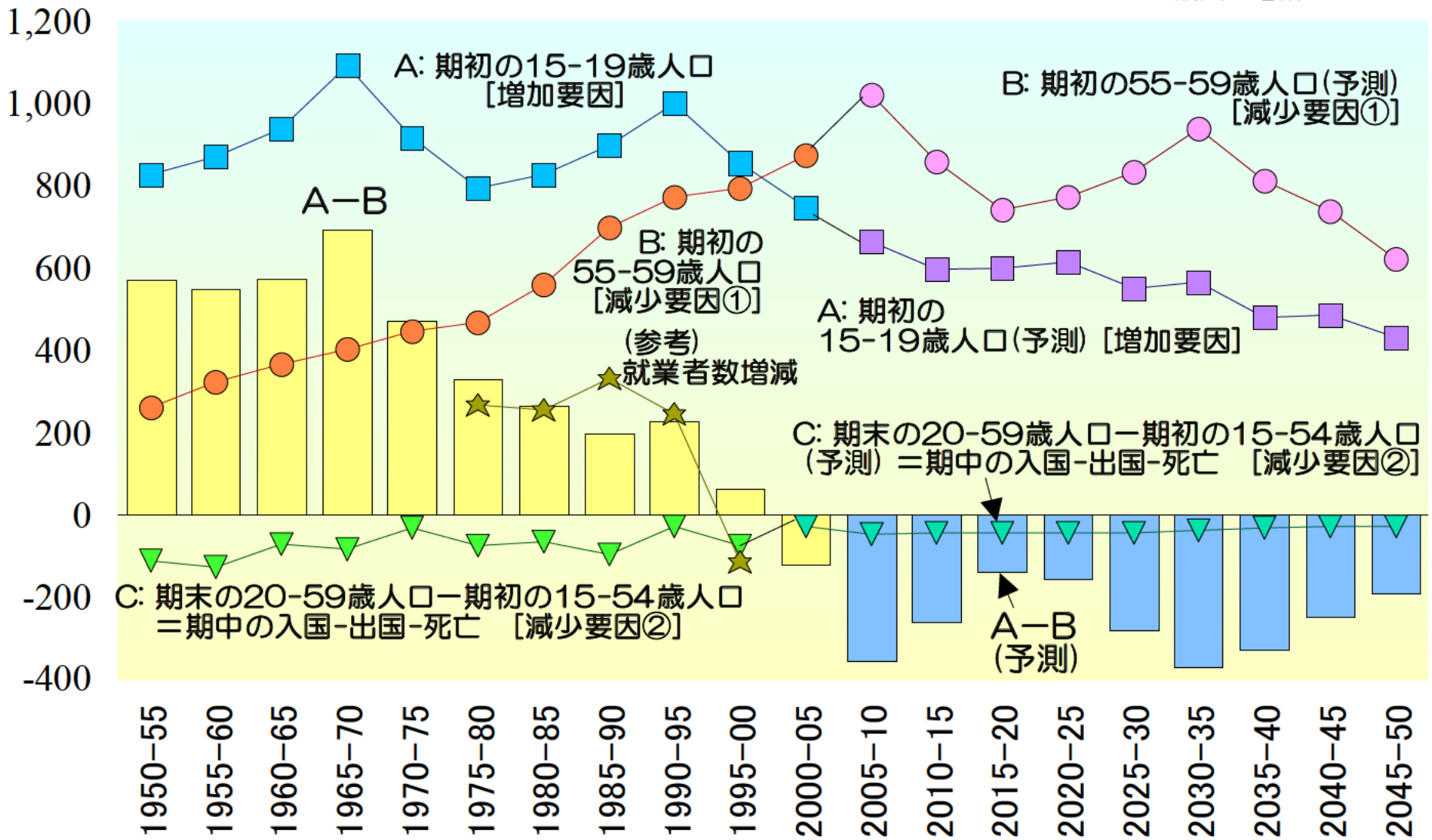
人口増減 実績&単純予測



人口ピラミッド要因で一方的に現役世代が減少

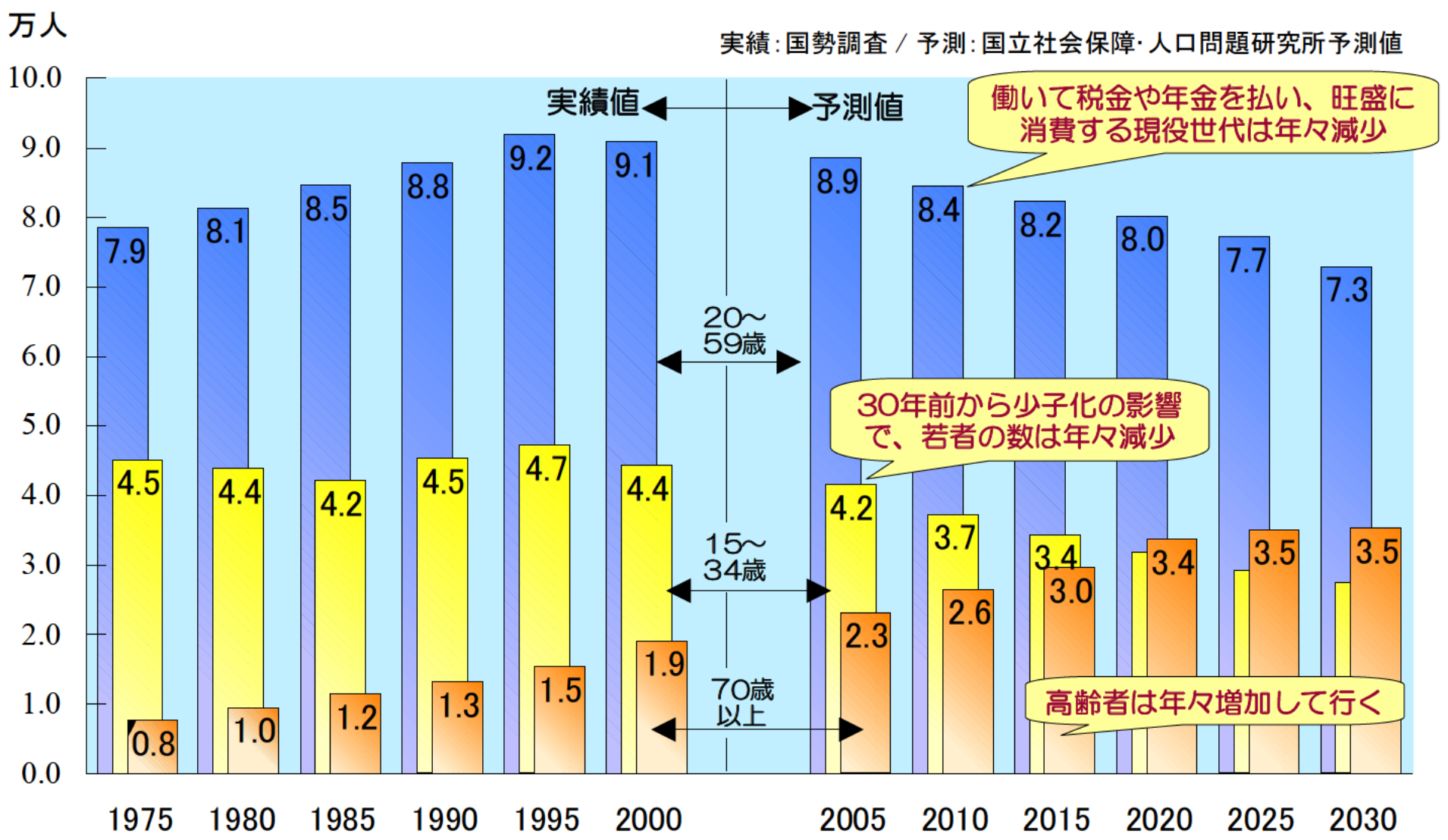
万人 わが国の20-59歳人口変動要因分解

資料：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所中位推計
20-59歳人口増減=A-B+C



高齢者が増え現役は減る津

津市(合併前市域)の年齢階層別人口 1975-2030

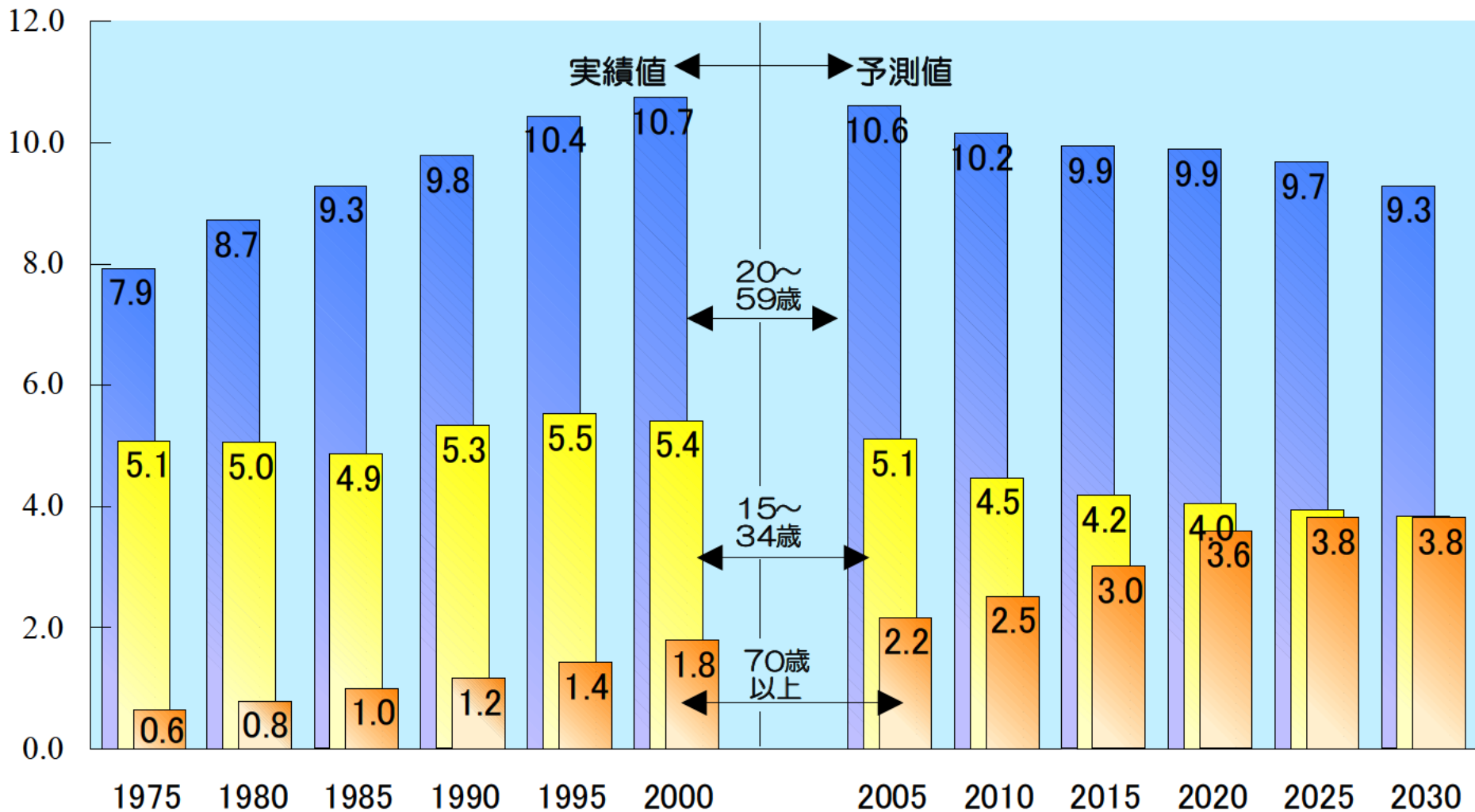


県内で一番調子のいい鈴鹿でも²³

鈴鹿市の年齢階層別人口 1975-2030

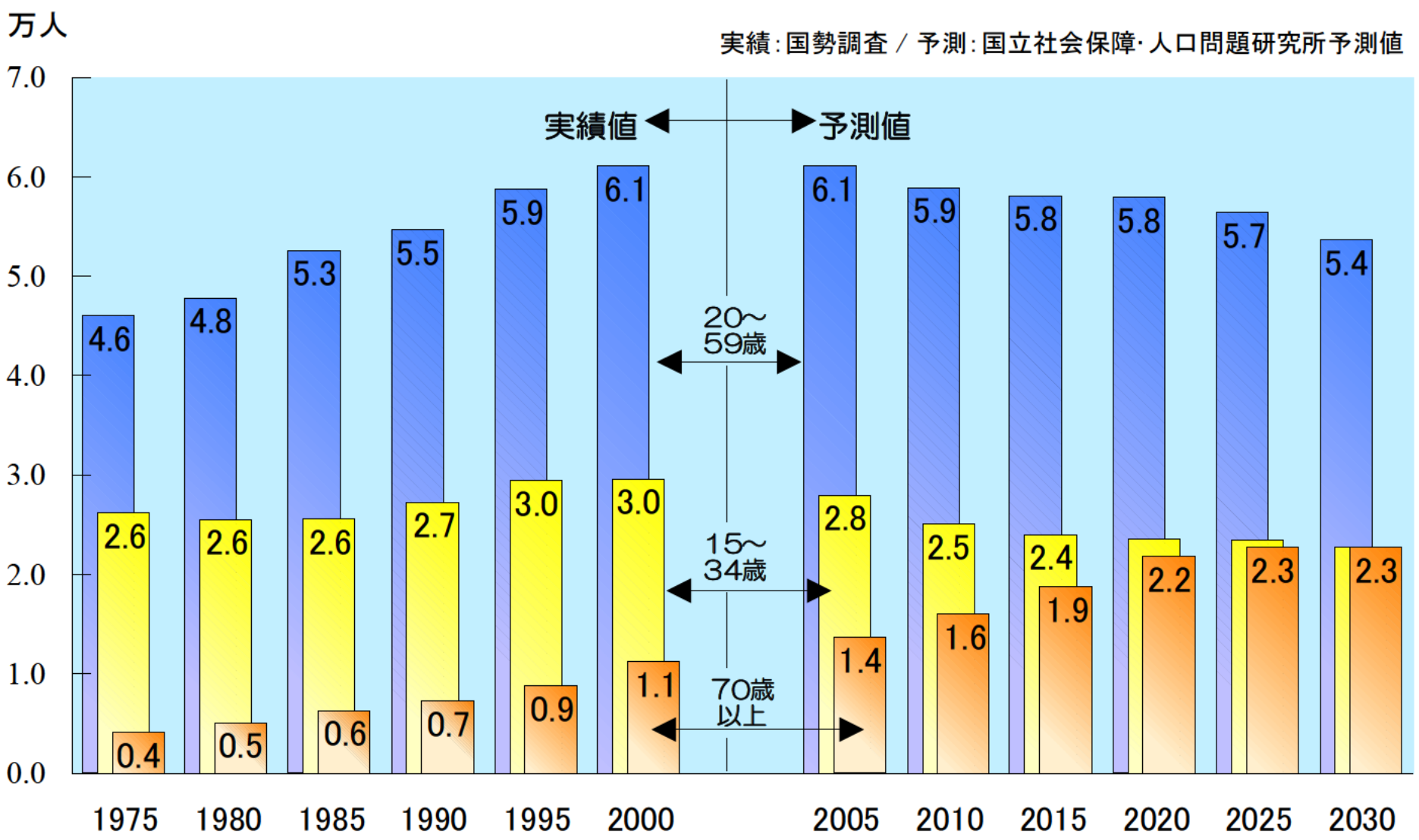
万人

実績：国勢調査 / 予測：国立社会保障・人口問題研究所予測値



同じく調子のいい桑名でも

桑名市(合併前市域)の年齢階層別人口 1975-2030

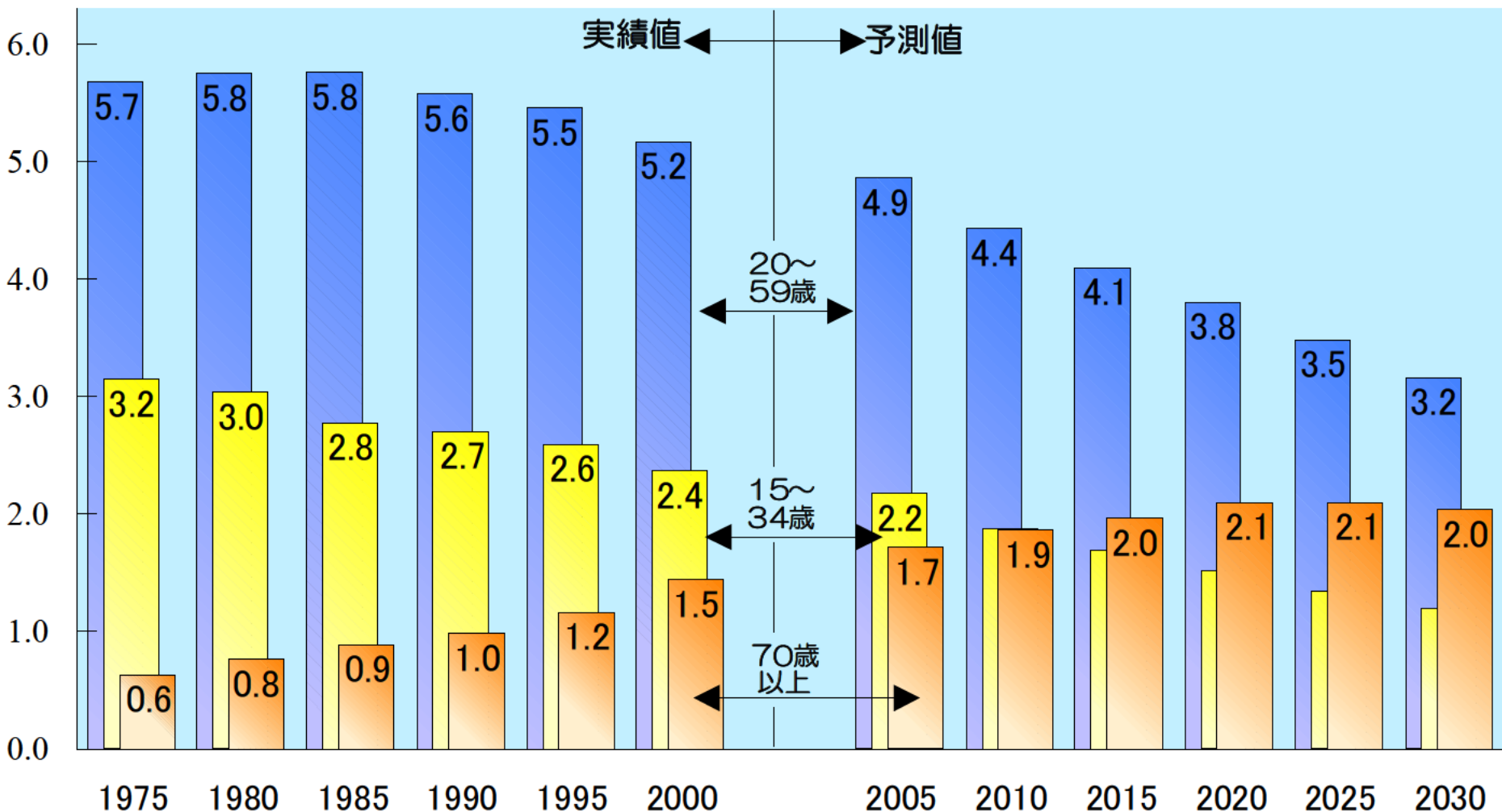


人口が減り始めた伊勢では

伊勢市(合併前市域)の年齢階層別人口 1975-2030

万人

実績: 国勢調査 / 予測: 国立社会保障・人口問題研究所予測値

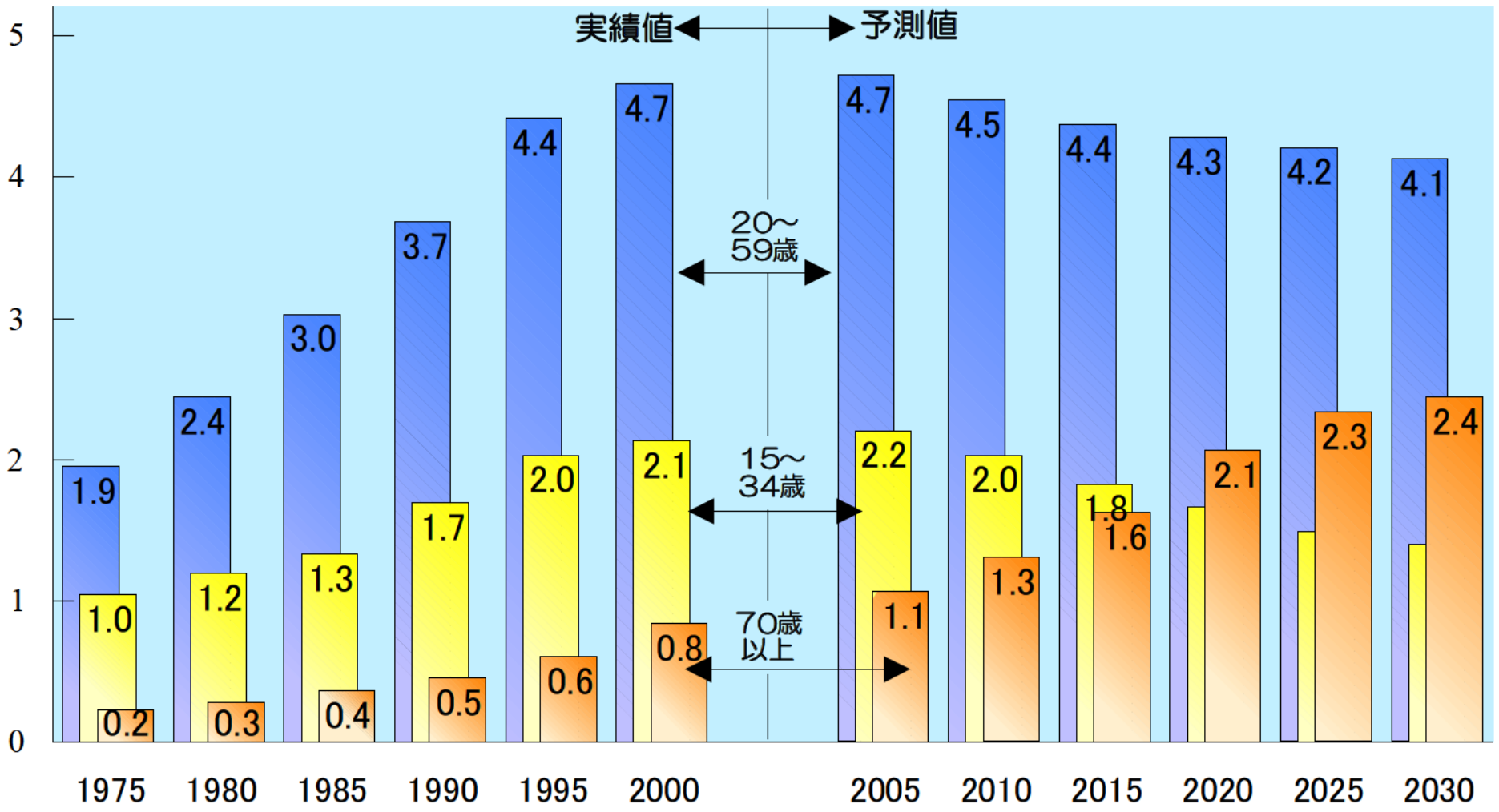


急成長の終わった名張では

名張市の年齢階層別人口 1975-2030

万人

実績：国勢調査 / 予測：国立社会保障・人口問題研究所予測値

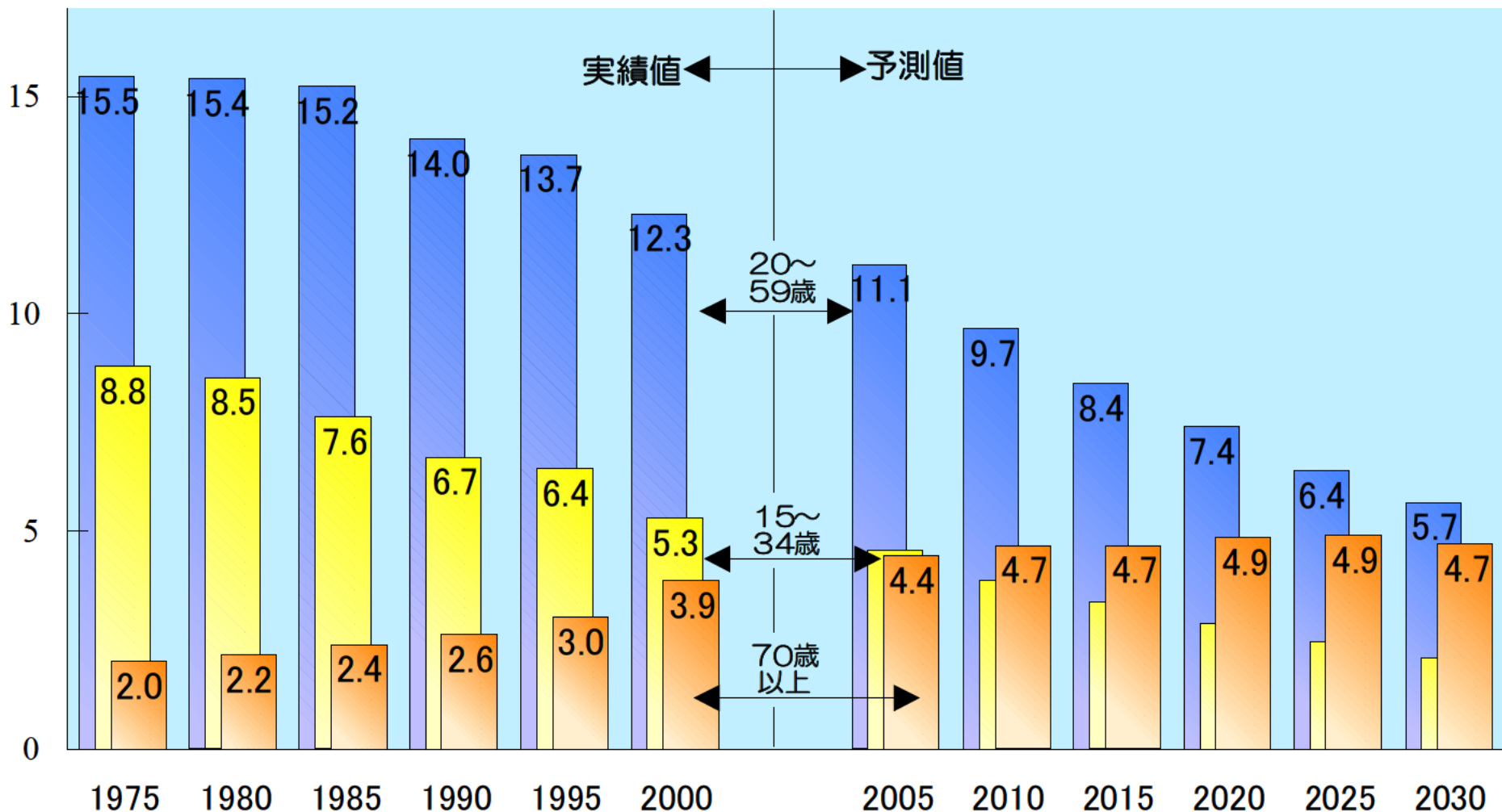


観光産業の退潮著しい鳥羽では²⁷

鳥羽市の年齢階層別人口 1975-2030

千人

実績：国勢調査 / 予測：国立社会保障・人口問題研究所予測値

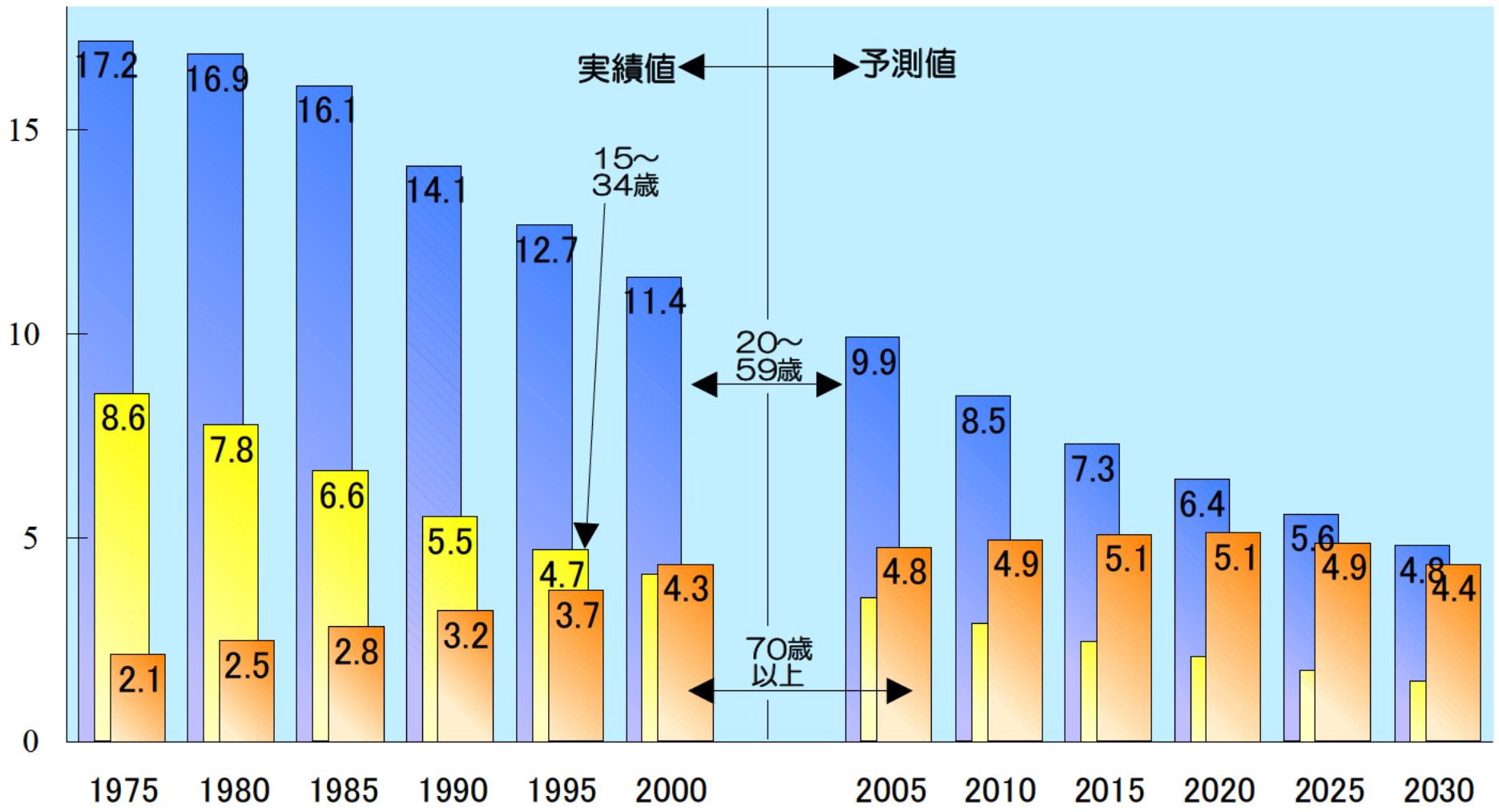


紀伊の中でも不調な尾鷲では

尾鷲市の年齢階層別人口 1975-2030

千人

実績: 国勢調査 / 予測: 国立社会保障・人口問題研究所予測値

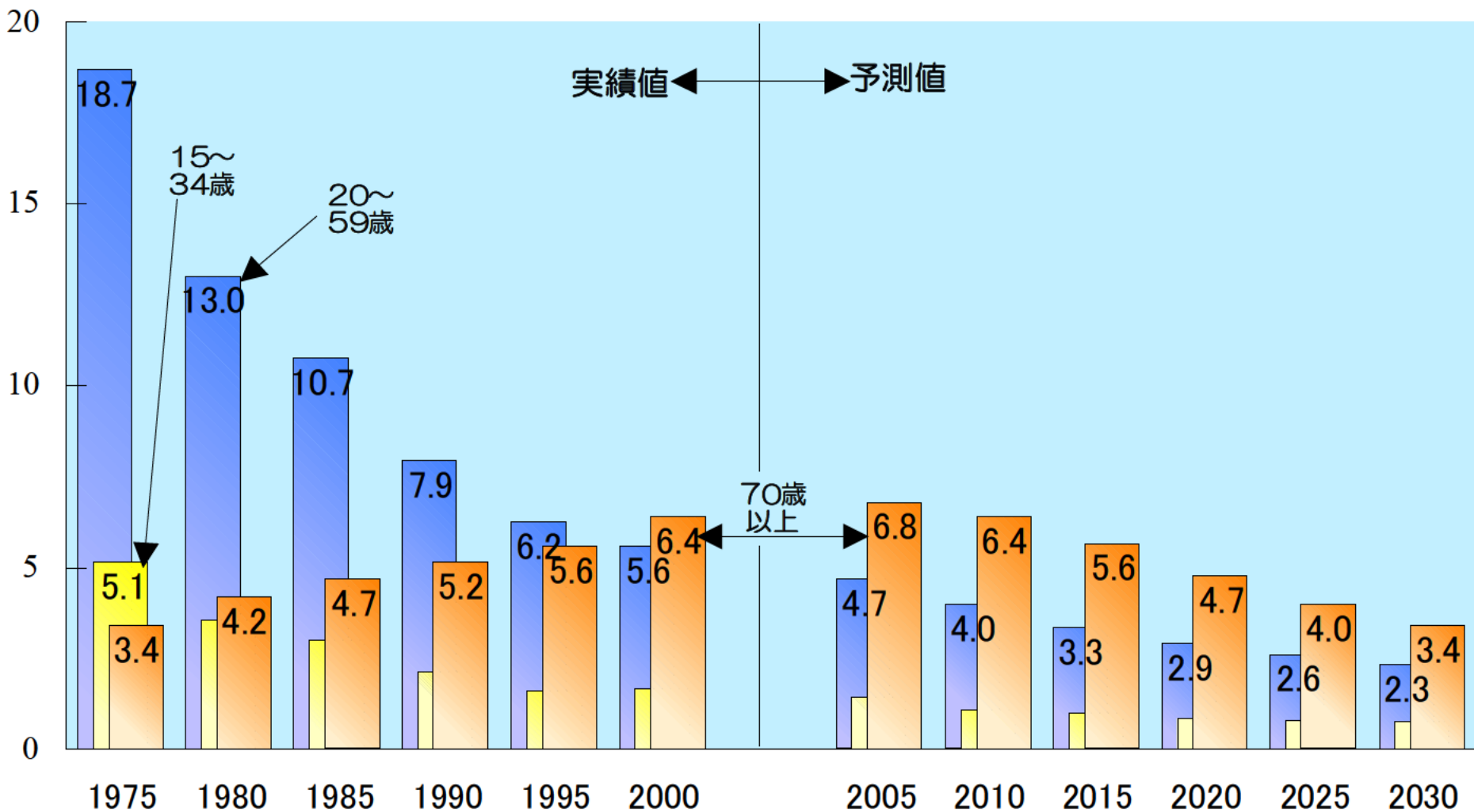


若者が出終わった山村では

(旧)紀和町の年齢階層別人口 1975-2030

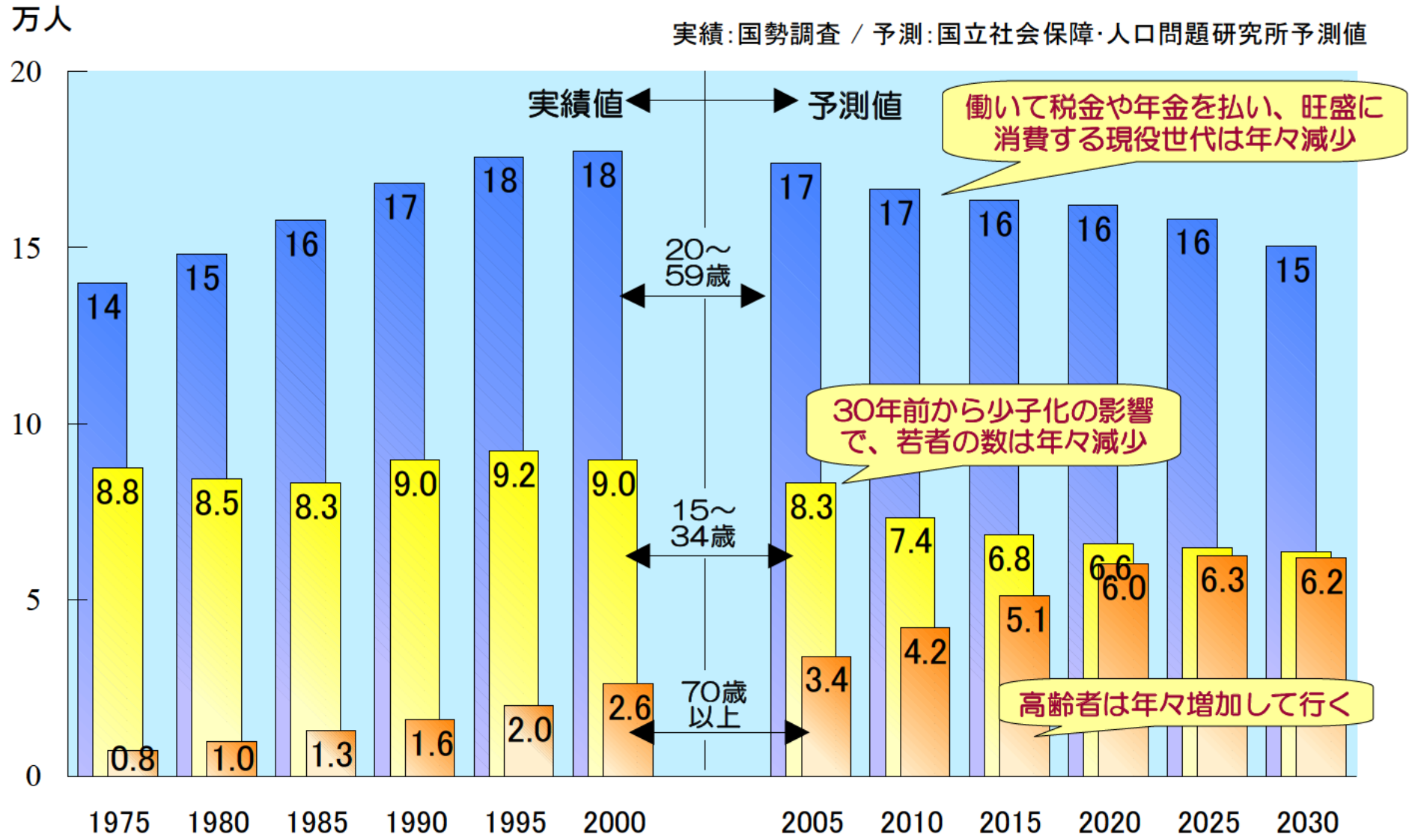
百人

実績：国勢調査 / 予測：国立社会保障・人口問題研究所予測値



首都圏でも起きることは同じ

東京都市圏の年齢階層別人口 1975-2030



構造的な20-59歳人口減少の帰結

- **少なくとも今後半世紀、わが国の20-59歳人口は構造的に減少を続ける。就業者数もこれに連動して減少していく。**
- 20-59歳人口減少は10年で700万人というようなペースであり、これを移民受入れやいまさらの出生者数増加努力で補うのは不可能
- **就業者数減少は、人手不足→失業率低下 / 機械化・情報化投資増加と、生産性向上→企業収益向上をもたらすので、数字上の「景気」を年々改善させる**
- しかし就業者数の減少＝可処分所得の減少であり、多くの商品の消費は年々冷え込む → 小売販売額低下は止まらない
- **主として20-59歳にしか消費されない商品の需要も減少を続ける** (戸建住宅・ファミリーカー・オフィス・通勤定期・職場旅行・結婚式...)

第二次大戦の愚を繰り返す日本

帰納 (実情報のフィードバック) ができない結果の惰性的失敗

1905

日本海海戦勝利
(大艦巨砲主義の
一つの到達点)

戦艦大和
建造開始

1941

真珠湾攻撃成功
(大艦巨砲主義
時代の終わりを
身をもって示す)

戦艦武蔵
建造開始
(貴重な鉄と
人材の、時
代遅れ分野
への投入)

1945

敗戦
日本海軍
全艦壊滅

60年代

高度成長到来
(→モノ大量生産
技術の研鑽・終身
雇用制・巨大都市
東京への資源集
中・内需拡大)

頂点と
しての
バブル
経済

90年代

生産年齢人口減少
アジア中枢機能が
東京から流出
モノ量産は中国が
世界の主役に
所得黒字・サービス
赤字が拡大

「都市再生」
と称する
過剰床供給
輸出依存の
量産継続・
旧来型内需
刺激策継続

2000年代

2003・2006・
2010年問題
などの連鎖(?)
東京の凋落(?)
内需の長期的
減退(?)

頭さえ白紙に戻せば対処可能

出生増加：「男性の育児分担は当たり前前」に戻す

人間は男女共同で働き子育てする生物（人口激増への対処で近時分業していただけ）
→ 江戸時代以前の農民のように、男性も子育てという重労働を分担するよう戻せ

労働力確保：移民受入の前に女性と高齢者を活用

女性就労率の2割上昇で労働力は1千万人以上増える / 元気な高齢者の活用も当然
→ 女性就労率が3→7割上昇し出生率が0.5ポイントも上がったオランダに学べ！

福祉・年金：同じ世代の貯金での互助で問題消滅

年金不安は、減り行く年下世代に高齢者を養わせるという「賦課方式」の産物
→ 年金福祉の費用を生年別に分割・完結させれば、日本人は全員左団扇になれる

諸産業：安価大量生産販売→高価少量生産販売へ

貯蓄を消費に回させるには、規格品の安価大量生産販売にオサラバすることが不可欠
→ 高度成長で感覚が狂ってしまった高齢経営者の世代交代こそ最重点の課題

まちづくり：土地減反（開発停止 / 市街地再集中）

日本人一人当たりの土地面積は年々増える → 地価は暴落、インフラ維持管理コストは爆発
この事態を避けるには、土地亡者どもを切り捨てる政策大転換が必要

頭さえ白紙に戻れば対処可能

日本の新たな使命！

明治期：欧米植民地主義打破の先鋒

→ 産業革命・近代軍創設・国民教育水準向上

戦後高度成長期：平和産業振興の旗手

→ 技術革新・平和産業振興・民生安定による内需拡大

石油ショック以降：脱工業化社会の先駆者

→ 大衆文化の創造と世界発信・世界文化多様化への貢献

21世紀：成熟化社会のモデル

→ 福祉と環境と経済の両立・少子化の軟着陸

中央集権から地域自立への転換

「地再集中」

日本人一人当たりの土地保有面積は減少傾向にある。この事態を避けるには、土地亡者ともいわれる「空き家」の捨てる政策へ転換が必要

出生増

人間は男3人
→ 江戸

劣

女性

年

年金

諸

貯蓄を消費
→ 高度

まちづくり

す

いただけ
よう戻せ

当然
べ!

る

とが不可欠
の課題

集中

維持管理コストは爆発